

雄峰高校夜間単位制 シラバス

各科目をクリックすると、該当ページにジャンプします。

○国語

国語総合…………… p 2

○地歴公民

世界史 A…………… p 3

世界史 B…………… p 4

日本史 A…………… p 5

日本史 B…………… p 6

地理 A…………… p 7

地理 B…………… p 8

現代社会…………… p 9

倫理…………… p 10

政治・経済…………… p 11

○数学

数学 I…………… p 12

○理科

科学と人間生活…………… p 13

物理基礎…………… p 14

化学基礎…………… p 15

生物基礎…………… p 16

地学基礎…………… p 17

○保健体育

体育…………… p 18

～21

保健…………… p 22

○芸術

音楽 I…………… p 23

美術 I…………… p 24

書道 I…………… p 25

○外国語

コミュニケーション英語 I…………… p 26

○家庭

家庭基礎…………… p 27

○情報

社会と情報…………… p 28

ビジネス基礎…………… p 29

課題研究…………… p 30

情報処理…………… p 31

国語科「国語総合」シラバス

目標 【学習指導要領】	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めると共に、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	古代から現代までの優れた文章を読み、表現も含め国語を総合的に学習する中で、意欲関心を失わせることのないようにする。常に自己肯定感を持って授業に挑めるように教材提供に工夫をする。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	随想	海流 ミクロネシア ルリボシカミキリの青 スピーチする	随想を読んで筆者のものの見方や感じ方を読み取る テーマを決めて2分間程度のスピーチをする
	小説1	とんかつ	表現の特色に注意しながら小説を読み、小説に親しむ。 登場人物の心情を読み取る。
5	古文入門1	古文に親しむ ちこのそら寝	古文の仮名遣いに注意しながら音読する 古語と現代語の違いについて理解する 話のおもしろさを感じ取る
	漢文入門1	訓読の基本	漢文の基本的な構造を考える 訓点の知識を確認する
	評論	訓読の基本(格言)	格言の現代語訳をする
		未来をつくる想像力	筆者の倫理の組み立てを理解する 論理性に重要な理由づけを理解する 筆者の主張に対して自分の意見を深める
6	前期中間考査		
	古文入門2	意見文を書く 鍋洗いの日々 用光と白波	意見文をまとめるのに必要な情報・知識の収集方法を理解する 仕事に対する思いを読み取る。 文語のきまりを理解し、現代語訳する。
7・9	漢文入門2	絵仏師良秀 故事	話のおもしろさを感じ取る。 訓読になれる 書き下し文の決まりを本文に即して確認する
	詩	空をかっいで 二十億光年の孤独 冬が来た	詩独自のリズムを理解する 詩の形式を理解する
前期期末考査			
10	小説2	羅生門	小説の時代背景を理解する 主人公の心理の変化を理解する
		討論する	論理的に考えることを理解する 討論の形態を理解する 討論会のマナーを理解する
11	随筆	ほおずきの花束	主人公の心情の変化を理解する
	唐詩	徒然草 枕草子	古文の表現に慣れる 作者のものの見方や感じ方に触れる
	論語	唐詩 八首 論語	漢詩の情景を感じ取る 孔子の思想を通じて物事の見方を豊かにする
後期中間考査			
12	随想2	待つということ 里山物語 調査して発表する	感受性を養う 人間についての理解を深める 情報収集の方法を理解する わかりやすく発表する
	1	詩歌 短歌・俳句	折々のうた 短歌
2		評論	俳句
	俳句を作る		俳句の決まりを理解して、表現方法を理解する
後期期末考査			

地理歴史科「世界史A」シラバス

目標 【学習指導要領】	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	近現代史を中心とする世界の歴史について理解させる。 諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら、現代の諸課題を歴史的観点から考察する。 歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

前期 月	後期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容			
4	10	世界史へのいざない	自然環境と歴史 日本列島の歴史に見る、世界とのつながり	世界の自然(地形、気候) 人・ものの移動 宗教の伝来 食べもの・技術の移転			
		序章	古代文明の成立	人類の誕生 農耕と牧畜の始まり 古代文明の成立			
		ユーラシアの諸地域世界	東アジア世界	中華世界の統一 東アジア世界の形成と展開 東アジアの文化、宗教			
			東南アジア世界	東南アジア世界の形成と展開			
			南アジア世界	南アジア世界の形成と展開 南アジアの文化、宗教			
			西アジア世界	古代オリエント イラン文明の成立 イスラーム世界の成立と発展 西アジアの文化、宗教			
		5	11	アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ	ヨーロッパ世界	古代地中海世界 東西ヨーロッパ世界の成立 西ヨーロッパ世界の変容 ヨーロッパの文化、宗教	
					南北アメリカ、アフリカ	南北アメリカ アフリカ	
				大西洋世界の变容とその波及	ユーラシアの交流圏	西ヨーロッパ世界の变容 イスラーム世界の広がり モンゴル帝国と東西交流の進展	
					中華帝国の繁栄と東アジア	明・清の繁栄と東アジア 東アジア周辺諸国の動向 対外交流から見る明清の文化	
15～17世紀の東南アジア	港市国家と朝貢貿易 イスラームの東漸 ヨーロッパ諸国の進出						
西アジアと南アジア	ティムール朝とムガル帝国 オスマン帝国とサファヴィー朝						
6	12			産業化社会の拡大と成熟	16世紀のヨーロッパ	ヨーロッパにおける近代社会の胎動 大航海時代 ヨーロッパの文化	
					主権国家体制と世界商業	主権国家体制の形成 絶対王政と議会王政 世界商業の進展	
				中間考査	ヨーロッパとアメリカの諸革命	革命の時代の開幕 アメリカ独立革命 フランス革命 ナポレオン戦争	
					産業革命と世界市場の拡大	産業革命 産業化の開始と社会	
		ヨーロッパの動乱の波及	ラテンアメリカ諸国の独立 オスマン帝国の動揺 インド洋から東アジアへ 広がる植民地と世界				
		ウィーン体制とその崩壊	ウィーン体制 ウィーン体制の動揺 1848年革命				
		7・9	1	アジア諸国の変貌と日本	国民国家への道	西ヨーロッパ アメリカ合衆国の発展と南北戦争 イタリア、ドイツの統一と東ヨーロッパ 東方問題とロシア 成熟する産業化社会	
					帝国と民族の時代	東アジアの変容	清帝国とその周縁地域 反乱と改革 日本・琉球・朝鮮
						東南アジアの変容	ベトナムとビルマ、シヤム 東インド会社のアジア進出
						南アジアの変容	ムガル帝国とインド亜大陸 インド大反乱
二つの世界大戦の時代	西アジア、アフリカの変容			オスマン帝国の弱体化と改革 北アフリカへのフランスの侵略 イギリスのエジプト占領 イランの状況と民衆の動き			
	急変する人類社会			第二次産業革命と科学技術 国民統合と移民 一体化の進む世界			
	植民地の拡大と深まる国家の対立			帝国主義とアフリカ分割 国民統合と帝国 ロシアとアメリカ合衆国の領土拡大			
	アジア、アフリカの抵抗運動			東アジアの勢力分割と抵抗運動 東南アジア、南アジアの民族運動 西アジア、アフリカの民族運動			
7・9	2			冷戦と民族独立の時代	第一次世界大戦	第一次世界大戦前夜のヨーロッパ 戦争の勃発と性格 戦争から革命へ	
					戦後秩序の形成	ヴェルサイユ体制 新しい勢力 抵抗するアジア 高まる中東の民族運動	
		世界恐慌とファシズム	世界恐慌 ファシズムの台頭 深まる世界の危機				
		第二次世界大戦	世界戦争への展開 占領と抵抗 戦争の終結と戦後世界の胎動				
		グローバル化のなかの危機	戦後社会の形成	連合国の戦後処理と世界 国際連合とアメリカ合衆国 対立する東西陣営			
			アジア、アフリカの民族運動	第二次世界大戦後の東アジア 朝鮮戦争と東アジア 民族運動と植民地支配からの独立 ベトナム戦争とアジア			
			冷戦体制の動揺	アメリカ合衆国の変化と国際政治の転換 経済成長下の東アジア、東南アジア 中東の激動 開発と貧困のなかで			
			冷戦の終結	ソ連におけるベレストロイカ 東欧革命 ソ連の解体と冷戦の終結 冷戦終結後の旧ソ連、東欧諸国			
		終章	グローバル化の進行 新自由主義政策と戦争	グローバル化の進行 新自由主義政策と戦争			
			地域統合の模索	ヨーロッパ統合 ロシアと旧ソ連諸国 ラテンアメリカ			
期末考査	動揺する中東と世界の地域紛争	湾岸戦争から2011年の革命まで 「オスロ合意」とパレスティナ問題 アフリカの情勢					
	アジアの変容と多様化	中国の経済成長と大国化 東アジア 東南アジア 南アジア					
		21世紀に生きる	現在の諸問題 新しい動き 持続可能な社会の実現に向けて				

地理歴史科「世界史B」シラバス

目標 【学習指導要領】		世界史の流れを理解し、文化や現代世界の特徴を考察することで歴史的思考力を高め、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を身につける。	
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】		基本的事項の定着をはかりながら、地理的条件や日本の歴史と関連付けて世界史の流れを理解させる。 作業的な学習を取り入れ、生徒自身が主体となり自ら考える態度を養い、歴史的思考力の向上をはかる。	
月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	世界史への扉	自然環境と人類のかかわり	ジャガイモと人類
		日本の歴史と世界の歴史の	世界をみた少年たち
	序章	日常生活にみる世界史	服装、球技
		地球と人類のはじまり	宇宙と生命の誕生、人類の起源、食料生産の開始、国家の成立
5	西アジア世界・地中海世界の形成	オリエント文明の形成	メソポタミア、ピラミッドの国、馬と鉄器を使う民族、商業の民とユダヤ教、統一帝国の出現
		ギリシア世界とオリエント	ボリスの成立と崩壊、スパルタとアテネ、ペルシア戦争とアテネ民主制の完成、ギリシアの文化、アレクサンドロス大王の帝国、ヘレニズム文化
	南アジア世界・東アジア世界の形成	古代インド文明の形成	インダス文明、アーリア人とバラモン教、ヴァルナ制度、仏教の成立、マウリヤ朝とクシャーナ朝、東西交流
		ヒンドゥー国家と社会の展開	グプタ朝による再統一、古典文化の成熟、ヒンドゥー諸王朝の分立、カースト制度の社会
東アジア世界・内陸アジア世界の形成①	東南アジア世界の形成	交易と外来文化の影響、群島部の交易国家、大陸部の国家建設、ミャンマーとタイの仏教国家	
	中国の古典文明	黄河流域の新石器文化、青銅器文化と都市国家、鉄器文化と社会の発展、諸子百家の思想	
	中華帝国の形成	始皇帝の中国統一、漢の登場、北方民族の動向、武帝の時代、豪族の台頭と後漢、漢代の社会と文化	
中国の分裂と遊牧国家		三国志の時代、新たな時代の胎動、統一へ向かう朝鮮半島と日本	
6	前期中間考査		
	東アジア世界・内陸アジア世界の形成②	中華帝国と東アジア	隋・唐帝国の誕生、繁栄する社会と文化、周辺諸民族の勃興、東アジア世界の成立、唐の衰退
		古代日本と東アジア	卑弥呼と邪馬台国、聖徳太子、遣隋使・遣唐使
	イスラーム世界の形成と拡大	イスラーム国家の成立	アッラーと預言者、イスラームの教え、ウンマと大征服、カリフの時代
		軍人政権の時代	トルコ人とイラン人、十字軍とモンゴル、軍人政権とウラマー、西方のイスラーム世界
		アフリカ・南アジアのイスラーム	サハラ交易と黒人国家、インドのイスラーム政権、東南アジアのイスラーム化
		イスラームの文化	農業・遊牧・商業、イスラーム法、学問と文化の交流
	ヨーロッパ世界の形成と変動	ビザンツ帝国と東ヨーロッパ	ビザンツ帝国、ビザンツの文化、スラヴ人の動向、ロシアの発展
		西ヨーロッパ世界の成立	ゲルマン人の大移動、フランクの発展、西ヨーロッパ諸国の形成、荘園のしくみと農民のくらし、キリスト教の役割と聖職者
	7-9	内陸アジア世界と諸地域世界	ヨーロッパ世界の変動
北方諸民族と宋			唐の滅亡と社会の変化、ウイグルと契丹、宋の成立と科挙、金の華北支配と南宋、江南の開発と社会の発展、成熟する文化
モンゴル帝国の興亡		モンゴル帝国の成立、元の中国支配、東西文化の交流	
ユーラシア諸地域の交流と再編		つながる世界、帝国の解体と諸地域の変化、アジア海上交易の形成と発展	
アジア諸地域世界の繁栄と成熟	「大旅行記」から世界のつながりをみてみよう	イブン・バトゥータ「大旅行記」	
	明と清	漢民族王朝の復活、対外政策と朝貢貿易、外圧と明の滅亡、女真の中国進出、中華帝国の完成、広がる銀の世界、伝統文化の復興と興隆	
	東アジア諸国の発展 東南アジアの大航海時代 イスラーム諸国の繁栄	ベトナム王朝の成立、朝鮮の諸王朝、琉球王国、日本の武家社会 海の文明と港市国家、マラッカ王国とジャワ・スマタラ、大陸部の国々 多民族国家の共存、オスマン帝国の発展、常備軍と官僚、サファヴィー朝とティムール朝、インドのムガル帝国、文化と社会	
前期期末考査			
10	ヨーロッパの拡大と大西洋世界	大航海時代	ポルトガル人の活動、アメリカ大陸の「発見」と世界周航、大航海時代の背景、大航海時代がもたらしたもの
		ルネサンス	ヒューマニズムとルネサンス、近代科学のみならず
		宗教改革	宗教改革、協会の分裂、宗教戦争
		近代主権国家の成立	絶対王政と主権国家、スペインの繁栄とオランダの独立、エリザベス女王のイギリス、ピューリタン革命と名誉革命、フランスの絶対王政
	産業社会と国民国家の形成	東方の大国	プロイセンとオーストリア、ロシア帝国の勢力拡大、ポーランドの滅亡
		ヨーロッパ人の進出とアメリカ・アフリカ	アメリカとアフリカの悲劇、奴隷貿易、世界の一体化、三角貿易
		産業革命	産業革命と世界経済、新しい工場と新しい交通、イギリス社会の変化、社会問題の発生、産業革命の発展と波及
	11	アメリカ合衆国の成立	北米植民地の独立戦争、ボストン茶会事件、合衆国憲法の制定
		フランス革命とナポレオン	アンシャン・レジーム、フランス革命、ナポレオンの帝国、第一帝政
		ウィーン体制と1848年の革命	ウィーン会議、自由主義とナショナリズム、イギリス自由主義の発展、二月革命、三月革命、社会主義運動のはじまり
世界市場の形成とアジア諸国	国民国家の建設と国際社会の変化	イタリアとドイツの建設、東方問題とロシア、アメリカ合衆国の発展	
	ヨーロッパの文化	バロック様式とロココ様式、啓蒙思想、ロマン派と写実主義	
	ヨーロッパ諸国のアジア進出	東インド会社の独占と抗争、アジアの三角貿易、西アジアへの経済進出	
	西アジアの変動	オスマン帝国の改革、専制と立憲運動、イスラーム改革思想	
12	東アジア・東南アジアの変動	インドの植民地化、インド大反乱、東南アジアの植民地化	
	東アジアの変動	清の社会変動とアヘン戦争、開国と不平等条約、太平天国と列強、地方軍の登場と洋務運動、ロシアの東アジア進出、日清戦争	
世界の分割①	海外ツアラーの誕生	トマス・クック社のエジプト旅行	
	世界を支配する国々	重工業の時代、帝国主義と世界の分割、帝国主義と国民の生活	
後期中間考査			
12	世界の分割②	アジアの民族主義と国家建設②	日露戦争、日本の韓国併合、辛亥革命、アジアの民族主義と国家建設
		世界の一体化	経済・文化の一体化、移動する人々、国際機関の誕生
	二つの世界大戦	第一次世界大戦	第一次世界大戦の勃発、長期化と総力戦、大戦と植民地、ロシア革命とソヴィエト体制の成立、アメリカの参戦、「民族自決」
		ヴェルサイユ体制とワシントン体制	帝国の解体、ヴェルサイユ体制と国際連盟、ワシントン体制の成立、イタリアのファシスト政権、ドイツの復興と国際協調の進展
1	アジアの独立運動と革命	中国の新文化運動、五・四運動、国共合作の成立、北伐の開始と国共の分裂、植民地政策の転換、トルコ革命、アジアの独立運動	
	アメリカ合衆国の繁栄	アメリカの台頭、繁栄の1920年代、大衆文化の時代	
2	世界恐慌と自由主義への挑戦	世界恐慌、ニューディール政策とブロック経済、スターリン体制下のソ連、ファシズムの台頭、スペイン内戦、満州事変、日中戦争	
	第二次世界大戦	ヨーロッパ戦線の拡大と戦争の変質、アジアと太平洋における戦争、戦争下のアジア諸国、ドイツの降伏、日本の敗戦と戦争の終結	
戦後世界の形成と変容	冷戦の展開と第三世界	新たな国際秩序、冷戦のはじまり、朝鮮戦争、中東戦争、第三世界	
	平和共存と多極化	核問題と平和共存、社会主義圏の多極化、ベトナム戦争、西ヨーロッパ・日本の経済復興、南北問題と資源戦略	
2	アメリカ経済の動揺と国際秩序の変容	ドル危機とアメリカ外交の転換、石油危機と国際秩序の再編、アジア経済の発展と日本、南南問題と環境問題、地域紛争の変容	
	冷戦の終結とその後の世界	冷戦の終結、ソ連・東欧社会主義圏の崩壊、超大国アメリカとヨーロッパ統合、急成長する東アジア、冷戦後の紛争と核軍縮	
終章	21世紀を生きる私たち	加速するグローバル化、貧困の解消、グローバル化のなかの日本	
	21世紀の課題	民族や文化のちがいをみとめながら生きる、「青い宝石・地球」	
後期末考査			

地理歴史科「日本史A」シラバス

目標 【学習指導要領】	我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	日本前近代の歴史をふまえ、近現代史を事実に基づき把握させ、歴史の構造とその変化を理解させる。 歴史を現代の課題と関連して主体的に学習させ、歴史的思考力を養う。 日本の歴史を世界の動きと関連して把握させ、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけさせる。

前期 月	後期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容		
4	10	世界と東アジア	東アジア世界の転換	19世紀の世界とアジア、ナショナリズム、冊封体制、アヘン戦争		
			開国	ペリーの来航、日米和親条約、日米修好通商条約、五品江戸廻送令		
			明治維新	倒幕運動、大政奉還と王政復古の大号令、戊辰戦争、版籍奉還と廃藩置県		
		近代国家の誕生	国境の画定	日清修好条規、日朝修好条規、樺太・千島交換条約、琉球処分		
			明治政府の諸改革	地租改正、四民平等と国民皆兵、殖産興業政策、明治六年の政変		
			自由民権運動	民権議院設立建白書、西南戦争、結社の時代、明治十四年の政変		
		近代社会の形成	大日本帝国憲法	政党の結成と私擬憲法のうねり、華族令と内閣制度、欽定憲法による帝国憲法体制、初期議会		
			文明開化	文明という価値、学制と新しい学校、太陽暦、明六社と知識人		
			新しい文化交流	岩倉使節団、留学生たち、お雇い外国人		
		日清戦争と日露戦争	19世紀末の東アジア	条約改正と近代日本、壬午軍乱と甲申事変、脱亜論		
日清戦争	日清戦争、下関条約と台湾征服、戦争と兵士					
東アジアの変革	三国干渉と列強の中国分割、王朝の自己改革、藩閥政治と政党政治					
帝国形成期の社会	日露戦争から韓国併合へ	義和団戦争から日露戦争へ、日本の中国進出と韓国の植民地化				
	産業化の進展	紡績業と製糸業、重工業の形成と財閥、交通の整備、金本位制と貿易				
	「日本国民」の誕生	教育の展開と国語の成立、国家主義とアジア主義、国民文化の形成				
大正デモクラシー	日露戦後の社会	はたらく人々の変化、地主制と農村、地方改良運動の進展、青年団と在郷軍人会				
	社会問題から社会運動へ	公害などの社会問題、社会運動の登場、大逆事件と冬の時代				
	都市社会の展開	情報と交通、安全な都市、便利な都市、新聞と雑誌				
5	11	ヴェルサイユ体制とロシア革命	大正デモクラシーの広がり	日比谷焼き討ち事件、第一次護憲運動、吉野作造と民本主義、デモクラシー思想の広がり		
			第一次世界大戦下の社会	サラエヴォの銃声、第一次世界大戦と日本の参戦、二十一条要求、大戦景気と成金		
		都市化と市民文化	ヴェルサイユ条約とレニングラード	パリ講和会議、ロシア革命、シベリア出兵		
			日本の植民地	租借地と委任統治、台湾支配の開始、植民地朝鮮と三一独立運動		
		東アジアの情勢と恐慌	ワシントン体制とアジア	五・四運動、ワシントン体制、協調外交のほじまり		
			アジアのなかのモダニズム	与謝野晶子、「婦人公論」と「主婦之友」、モダニズム、東アジアのなかで		
		日中15年戦争	米騒動、改造の動きと組織の結成、社会主義と国家主義、政党内閣	米騒動、改造の動きと組織の結成、社会主義と国家主義、政党内閣		
			関東大震災と都市化の進展、ラジオ放送、文化住宅、農村社会の変化	関東大震災と都市化の進展、ラジオ放送、文化住宅、農村社会の変化		
		6	12	アジア太平洋戦争①	移動する人々	海を渡った人々、日本の帝国化と人の移動、国家間関係の変化とその影響
					第二次護憲運動と政党内閣、治安維持法と普選体制、政友会と民政党、幣原外交と田中外交	第二次護憲運動と政党内閣、治安維持法と普選体制、政友会と民政党、幣原外交と田中外交
アジア太平洋戦争②	昭和三十九年			昭和三十九年、昭和恐慌、社会不安の世相、プロレタリア文学		
	柳条湖事件、満州事変、メディアの戦争、世界史のなかのファシズム			柳条湖事件、満州事変、メディアの戦争、世界史のなかのファシズム		
戦後世界と日本	モダン都市と危機の農村			モダン都市、農村の危機、天皇機関説事件、二・二六事件		
	日中戦争			華北の紛争、日中戦争の全面化、長引く戦争		
冷戦と日米安保体制	総動員の時代			国民精神総動員運動、戦争と社会、大政翼賛会		
	第二次世界大戦と三国同盟、アジア太平洋戦争、中国の戦線			第二次世界大戦と三国同盟、アジア太平洋戦争、中国の戦線		
高度経済成長下の日本	戦時下の社会と抵抗			学徒出陣、戦争と女性、戦時下の抵抗		
	大東亜共栄圏			占領下の東南アジア、「皇民化」政策と強制連行、抵抗と協力		
経済大国	アジアのなかの「敗戦」	空襲と民衆生活、地上戦の経験、原爆投下と「敗戦」				
	敗戦前後の暮らし	敗戦前後の生活、復員と引き揚げ、植民地出身者の帰国				
転換した世界のしくみ	戦後の世界	国際連合の成立、戦後世界の秩序、アジアの冷戦				
	日本占領	GHQとマッカーサー、非軍事化と民主化、戦争責任と東京裁判				
現代日本の課題	国民主権と日本国憲法	憲法制定と「国民」、新しい地域社会、経済社会の改革				
	民主主義とアメリカ化	占領下の社会改革、新しい教育と子どもたち、民主主義とアメリカ				
地域からみた日本	朝鮮戦争	アジアの冷戦と占領政策の転換、朝鮮戦争と日本、戦争特需				
	サンフランシスコ体制	サンフランシスコ平和条約、日米安保条約と平和憲法、賠償とアジア				
期末考査	沖繩と旧植民地	1950年代の沖繩、アイヌからみた戦後社会、旧植民地社会の諸問題				
	平和運動の展開	戦後思想の誕生、基地闘争、原水爆禁止と女性たち				
7・9	2	戦後の社会と文化	復興する社会、人々がつくる社会、大衆文化			
		55年体制と安保	55年体制、国際社会への復帰、安保闘争と新安保条約			
7・9	2	日韓条約とベトナム戦争	日韓交渉と日韓条約、ベトナム戦争と東アジア、ベトナム反戦運動			
		沖繩返還と日中関係	沖繩復帰運動、沖繩返還協定、日中国交正常化			
7・9	2	首都圏と太平洋ベルト地帯	経済成長への夢と東京オリンピック、重化学コンビナート、高度経済成長の代償			
		新たな生活スタイルへ	サラリーマン・マイホーム・専業主婦、家電・消費革命・中流意識、学卒一斉就職・進学熱・大学紛争			
7・9	2	住民運動と革新自治体	住民運動と市民の権利、女性たちの問い、市民参加と生活の質			
		石油危機	経済危機と政治危機、減量経営と国債増大、日米同盟と国際国家			
7・9	2	家族と労働の変化	非正規雇用・外国人労働者・過労死、少子化・高齢化・一人暮らし化、東京集中・耕作放棄・食糧自給率			
		冷戦体制の終焉	反核運動とアジアの民主化、冷戦体制の終焉、55年体制の終焉			
7・9	2	グローバリゼーションの時代	グローバル経済、政治体制のグローバル化			
		21世紀の世界と日本	2001年9月11日同時多発テロ、戦後補償裁判、日本国憲法の現在			
7・9	2	21世紀日本の経済と政治	日本経済のいま、産業の構造と地域社会、はたらく現場、2009年8月30日			
		21世紀日本の社会と文化	現代日本のなかの人間、環境問題への取り組み、情報ネットワーク社会の展開、21世紀を生きる、2011年3月11日東日本大震災			
7・9	2	北海道	アイヌの土地と開拓の土地			
		東北	東北からみる近代日本			
7・9	2	東京と近郊	都市の発展とくらしの変化			
		日本海	ひらかれる地域 とざされる地域			
7・9	2	東海・甲信	故郷をはなれてはたらくこと			
		近畿	商業と文化			
7・9	2	瀬戸内	戦争の海 平和の海			
		九州	産業化の光と影			
7・9	2	沖繩	問い続ける沖繩			
		海外	植民地と戦争の記憶			

地理歴史科|日本史B|シラバス

目標 【学習指導要領】		我が国の歴史の展開を、世界的な視野に立つて総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによつて、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。	
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】		歴史を考察する基本的な方法を理解させるとともに、身近な話題を歴史的事項と関連づけ、歴史への興味・関心を高め、歴史的な見方や考え方を身につけさせる。 様々な歴史的資料を読み、その内容を理解させるとともに、正しい知識を身に付けさせる。	
月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	文化と国家の形成	日本列島の旧石器文化 縄文時代の社会と文化 弥生時代の社会と文化 小国の分立から倭国の形成へ 大和政権の形成 倭の五王と大和政権の勢力伸長 氏姓制度と群集墳の出現	・人間がまだ文字を知らない時代の歴史は、地中に埋まっている遺跡から考古学の成果によってわかることの意味を考えさせる。 ・石器時代には、平等な社会だったが、農耕がはじまると貧富の差があらわれ、権力者が出現してくることの意味をとらえさせる。 ・自分たちの地域に残る古墳と畿内にある巨大な古墳とのかわり比べさせる。
		飛鳥時代の政治と文化 古代国家の形成 律令の成立と白鳳文化 平城京と律令政治 奈良時代の社会と政治 国家仏教と天平文化 平安初期の政治と文化 摂関政治の確立 因風文化の成立	・飛鳥・奈良に古代の都が成立した意味を考えさせる。 ・古代国家が中国など東アジア地域との関係のなかで成立したことをとらえさせる。 ・古代国家の政治・経済・文化の特徴をとらえさせる。 ・古代の都と地方の関係を調べさせる。 ・古代国家の税制と鎮守国家仏教の特徴をとらえさせる。 ・律令社会の変遷過程をとらえさせる。 ・藤原氏が摂関白として権力をもつようになる過程を理解させる。
5	古代国家の確立	中世社会の土地制度 武士団の成立 院政と保元・平治の乱 平氏の繁栄と治承・寿永の乱 鎌倉幕府の成立過程 承久の乱と執権政治	・荘園公領制が成立していく過程を理解させる。 ・武士がしたいに権力を獲得していく過程を理解させる。 ・御家人制度を基盤とする鎌倉政権の意義をとらえさせる。
		前期中間考査	
6	中世社会の成立②	地頭の荘園支配 農工業の発達と流通 蒙古襲来と鎌倉幕府の衰退 鎌倉時代の仏教と文化 北条氏の専制と悪党 建武の新政と南北朝の内乱 室町幕府の確立 室町幕府の東アジアと日本 南北朝時代の文化と北山文化 室町時代の流通経済の発達 惣村が形成されていく意義と特徴をとらえさせる。 惣村を基盤とする一揆がなぜおこってきたのかを考えさせる。 室町幕府の衰退から戦国時代の始まりまでの過程を考えさせる。 東山文化と地域文化の発展についてその特徴を理解させる。	・農工業の発達と流通の発展の関係をとらえさせる。 ・蒙古襲来が鎌倉幕府に与えた影響について考えさせる。 ・鎌倉時代の文化と仏教の特徴をとらえさせる。 ・執権政治と悪党の出現の意味を考えさせる。
		中世社会の展開	鎌倉幕府滅亡後、南北朝の内乱が長い間続くのはなぜか考えさせる。 室町幕府の性格と対外関係の特徴を理解させる。 南北朝時代の文化と北山文化の特徴を理解させる。 室町時代の流通経済の発達過程を理解させる。
7-9	統一政権の成立	大航海時代と日本 織田信長の天下布武 豊臣秀吉の全国統一 豊臣政権の対外政策 桃山文化 江戸幕府の成立 幕府と藩の支配体制 鎖国と四つの口 身分制と村・町の支配	・大航海時代とはどのような時代か考えさせる。 ・織田信長の天下統一政策の特徴をとらえさせる。 ・豊臣秀吉の天下統一政策の特徴をとらえさせる。 ・豊臣政権の朝鮮侵略などの意味を考えさせる。 ・桃山文化の特徴を理解させる。 ・徳川家康の政権樹立過程をとらえさせる。 ・徳川幕藩体制の特徴を理解させる。 ・江戸時代初期の対外政策について考えさせる。 ・武士と百姓の関係を考えさせる。
		前期期末考査	
10	幕藩体制の展開	幕府政治の転換 産業の発達 交通と都市の発達 町人文化と学問の発達 享保の改革と田沼の政治 商品経済の発達と社会の変化 蘭学と国学の普及 寛政の改革と異国船の接近 大塩の乱と天保の改革 民衆文化の発展	・幕府はなぜ文治政治に転換したのか考えさせる。 ・民衆はどのように生産を高めたのか考えさせる。 ・流通の発展の特徴をとらえさせる。 ・町人文化はなぜ発展したのか考えさせる。 ・徳川吉宗と田沼意次の政策の特徴を理解させる。 ・百姓一揆や打ちこわしの背景を理解させる。 ・国学や蘭学が誕生した背景と特徴を考えさせる。 ・外国船が日本に何を求めてきたか考えさせる。 ・天保の改革はなぜ失敗したのか考えさせる。 ・文化・文政時代の文化の特徴を理解させる。
		大日本帝国の形成	・ペリー来航と開国がもたらした日本社会への影響を考えさせる。 ・倒幕運動の展開過程を理解させる。 ・新政府の基本政策の特徴を考えさせる。 ・文明開化は暮らしをどう変えたのか考えさせる。 ・新政府は民衆の支持を受けたのか考えさせる。 ・新政府の対外政策の特徴を理解させる。 ・自由民権運動はどのように広がったのか考えさせる。 ・国民が求めた憲法とは何か考えさせる。 ・松方デフレ政策がもたらしたものを考えさせる。 ・大日本帝国憲法の制定過程と内容の特徴をとらえさせる。
11	大日本帝国の展開①	条約改正と立憲政友会の結成 朝鮮政策と日清戦争 日清戦争後の東アジア 日露戦争と朝鮮 朝鮮の植民地化 産業革命と社会問題 欧米文化と伝統文化の交錯 大正デモクラシー	・日本が欧米列強のような植民地主義をとっていく過程を考えさせる。 ・日露戦争の性格と特徴を考えさせる。 ・朝鮮の植民地化の過程と意味を考えさせる。 ・産業革命は何をもたらしたのか考えさせる。 ・近代文化の特徴を理解させる。 ・大正デモクラシーの特徴を理解させる。
		後期中間考査	
12	大日本帝国の展開②	第1次世界大戦 第1次世界大戦後の世界 日本資本主義の成長 米騒動と社会運動 普通選挙法と治安維持法 大正デモクラシーと文化	・第1次世界大戦に日本がなぜ参戦したのか考えさせる。 ・朝鮮や中国から日本への批判が強められたのはなぜか考えさせる。 ・財閥が生まれた背景をとらえさせる。 ・社会運動の高揚の意味を考えさせる。 ・民衆文化が発展したことを理解させる。
		15年戦争と日本・アジア	・日本軍は中国で何をしたか考えさせる。 ・満州事変と「満州国」 ・国民が戦争に総動員されていく過程を理解させる。 ・日中戦争 ・戦争は文化をどう圧迫したのか考えさせる。 ・「大東亜共栄圏」とはどのようなものか考えさせる。 ・アジア太平洋戦争 ・15年戦争は何をもたらしたのか考えさせる。 ・敗戦の意味を考えさせる。
1	戦後改革と高度経済成長	戦後世界と日本 日本国憲法と民主主義体制 戦後改革の転換 経済復興と再軍備 サンフランシスコ平和条約 新日米安全保障条約 高度経済成長と公害 ベトナム戦争と沖縄 戦後の文化	・占領政治の特徴を理解させる。 ・新憲法を生みだした力は何か考えさせる。 ・民主化政策の転換の背景を考えさせる。 ・朝鮮戦争で日本はどう変わったのか理解させる。 ・日本の「独立」過程の特徴を考えさせる。 ・新安保反対運動はなぜおこったのか考えさせる。 ・高度経済成長の光と影を理解させる。 ・沖縄から戦後を考えてみる。 ・戦後どのような文化が生まれたか考えさせる。
		現代の世界と日本	・高度成長がなぜ終わり、その後どうなったのか考えさせる。 ・経済大国化がもたらしたものをとらえさせる。 ・湾岸戦争がもたらした変化を考えさせる。 ・バブル経済の特徴を考えさせる。 ・21世紀の日本社会の特徴と課題を考えさせる。 ・21世紀のアジアと日本の関係について考えさせる。
後期期末考査			

地理歴史科「地理A」シラバス

目 標 【学習指導要領】	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	基礎的・基本的な事項を重点的に行い、その定着を図る。また、授業で使用する学習プリントでは地図・資料の読み取りを多く設け、地理的技術の習得を図る。

前期 月	後期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	10	地球儀や地図でとらえる現代世界	球面で世界を考えよう	緯度・経度の概念を活用し、地球上における位置関係を正しく認識する。季節の変化、時差の発生の仕組みを理解する。
			世界地図の特徴を知ろう	さまざまな地図の特徴を理解する。
			時差を調べよう	時差の概念を理解し、時差を計算で求めることができる。
			国家の領域と領土問題	国境と領域のきまりやさまざまな国家の分類を理解する。
			交通機関の発達と縮小する地球世界	世界の交通の発達による一体化と地域差を考察する。
			情報・通信で一体化する世界	世界の情報・通信の発達による一体化と地域差を考察する。
5	11	世界の人々の生活を取り巻く地理的環境	さまざまな地形と生活	様々な地形の形成の仕組みを理解し、そこにおける人々の生活を考察する。
			地形図の読み方	地形図の特徴を理解し、読図に取り組む。
			世界的視野から見た気候	世界の気候の特徴を理解し、そこでの人々の生活、農業、植生を考察する。雨温図・ハイサーグラフの読図ができる。
		世界の諸地域の生活・文化と環境	東アジア	東アジアの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。
		中間考査		
6	12	世界の諸地域の生活・文化と環境	東南アジア	東南アジアの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。
			ヨーロッパ	ヨーロッパの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。
			北アメリカ	北アメリカの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。
		私たちが直面する地球的課題	人口問題	地域による人口問題の違いや、その解決に向けての取り組みを考察する。
			食料問題	食料問題について発展途上国、先進国、日本の事例を考察する。
7・9	1	私たちが直面する地球的課題	都市問題	世界の都市・居住問題の要因と発生のしくみ、解決について考察する。
			資源・エネルギー問題	世界の資源・エネルギーの生産や消費における課題について考察する。
			環境問題	世界の環境問題の成因や特徴を理解し、その対策について考察する。
		自然環境と防災	日本の自然と生活	日本の地形の特徴を理解し、その自然環境における人々の生活がいかなるものか考察する。
自然災害に備えた暮らし	日本の地形から起こり得る自然災害を理解し、災害に備えた暮らしを考察する。			
		期末考査		

地理歴史科「地理B」シラバス

目標 【学習指導要領】		現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】		基礎的・基本的な事項を重点的に扱い、その定着を図る。また、授業で使用する学習プリントでは地図・資料の読み取りを多く設け、地理的技術の習得を図る。	
月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	地理情報と地図	現代世界の地図 地図の種類とその利用	様々な地図の読図を通し、現代の地図や身近な地図の有用性に気づく。 様々な図法や地球儀を活用し、現代世界の地理的事象を捉える地理的技術を身につける。
	地図の活用と地域調査	地理情報の地図化 地図の活用と地域調査	地理情報の統計地図化を行い、地図の有用性に気づき、地理的技術を身につける。 生活圏の地域的特色を捉える地理的技術を身につける。
5	自然環境	世界の地形	地形の分布や成因を考察するとともに、人間生活との関わりを考察する。
		世界の気候 日本の自然の特徴と人々の生活	世界の気候の特徴と農業など人間生活への影響を考察する。 日本の自然と自然災害の特徴を理解し、防災のあり方を考察する。
6	前期中間考査	自然環境	環境問題 世界の環境問題の成因や特徴を理解し、その対策を考察する。
	資源と産業	産業の発達と変化 世界の農林水産業 食料問題 エネルギー資源・鉱産資源 資源・エネルギー問題	産業の発達と変化について自然環境とグローバル化の視点から考察する。 世界の農林水産業について現状と課題を理解する。 食料問題について発展途上国、先進国、日本の事例を考察する。 エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。 世界の資源・エネルギーの生産や消費における課題について考察する。
7・9	資源と産業	世界の工業 第3次産業 世界を結ぶ交通・通信 現代世界の貿易と経済圏	世界の工業発達・工業地域について理解し、日本の課題を考察する。 現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特徴を考察する。 世界の交通・通信について、その発達による一体化と地域差を考察する。 世界貿易や経済圏の現状と課題や、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題を考察する。
		後期期末考査	
10	人口、村落・都市	世界の人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題	世界の人口分布の特徴や動態、人口構成や人口転換を考察する。 発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。 村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。 世界の都市・居住問題の要因と発生のしくみ、解決について考察する。
		生活文化 民族と宗教 現代世界の国家 民族・領土問題	生活文化の分布や地域的差異を理解する。 民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。 国境と領域のまきりやさまざまな国家の分類を理解する。 世界の民族・領土問題を理解し、民族の共生について考察する。
12	現代世界の地域区分	地域区分とは何か 地域区分のさまざまなスケール	地域区分の概念や地域区分の目的、意義を理解し、有用性に気づく。 地域区分のスケールの違いを理解し、有用性に気づく。
		後期中間考査	
1	現代世界の諸地域	地誌の考察方法 東アジア 東南アジア 南アジア 西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ ロシア	地誌の考察についてさまざまな方法があることとその特徴を理解する。 東アジアの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。 東南アジアの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。 南アジアの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。 西アジアの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。 アフリカの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。 ヨーロッパの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。 ロシアの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。
		アンゴロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア	アンゴロアメリカの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。 ラテンアメリカの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。 オセアニアの地形・気候、民族、農業、工業等について理解する。
後期期末考査			

公民科「現代社会」シラバス

目 標 【学習指導要領】	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	基礎的・基本的な事項を重点的に扱い、その定着を図る。社会への興味・関心を喚起するため、身近な具体例を取り上げ、授業を展開する。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	環境と私たちの生活 <small>資源・エネルギー問題と私たちの生活 科学技術の発達と私たちの生命 高度情報社会と私たちの生活</small>	地球環境のいま	環境問題の実態を理解し、その対策について考察する。
		限りある資源	資源の有限性について理解をふかめ、資源を有効に利用するためにどのようにしなければならないかを考察する。
		科学技術の発達と生命	生と死における倫理的課題や個人の尊厳について考察する。
		情報の高度化の進展	情報の氾濫する現代社会における、適切な情報の取捨選択について考察する。
5	青年期と自己の形成	青年期とは	人生における青年期の意味を考察する。
		青年期を充実させるために	青年期の特徴を理解し、人間として自立するためには、何をしたらよいかを考察する。
		伝統や文化とのかかわり	日本の伝統文化や生活文化について理解する。
		社会とのかかわり	現代の雇用の現状を理解し、その課題と働き方について考察する。生涯にわたって学習していくことの意義を考察する。
前期中間考査			
6	個人の尊重と法の支配	個人と国家	国家の成立の背景と、私たちの関係について理解する。
		基本的人権の保障	基本的人権の保障の歴史を理解する。
		世界の政治体制	世界のおもな政治体制を理解する。
		日本国憲法の基本原理	日本国憲法の成立とその特性を理解する。
		平等に生きる権利	平等権について理解し、身の回りの偏見・差別問題の解決策を考察する。
		自由に生きる権利	自由権について理解し、私たちの生活との関わりを考察する。
7	現代の民主政治と政治参加の意義	豊かに生きる権利	社会権について理解し、私たちの生活との関わりを考察する。
		国会の運営と権限	国会のしくみ、権限について理解する。
		内閣と行政の民主化	内閣のしくみ、権限について理解する。
		裁判所と人権保障	裁判所のしくみ、権限について理解する。
		地方自治と住民の福祉	地方自治の意味と地方自治の発展のための課題について理解する。
		選挙制度の現状と課題	選挙制度のしくみについて理解する。
前期期末考査			
10	国際政治の動向と日本の役割	国家主権と国際法	主権国家、国際法の役割について理解する。
		国際連合の役割と課題	国際連合の役割と課題について理解する。
		核兵器の廃絶と国際平和	核兵器の脅威理解し、核兵器の廃絶について考察する。
		地域紛争と人種・民族問題	人種・民族による争いの背景を考察し、その実態を理解する。
		国境と領土問題	国境と領土問題について理解する。日本の領土問題について理解する。
		経済と私たちの生活	経済の基本的なしくみについて理解する。
11	現代の経済社会と私たち	現代の企業	企業の活動と役割を理課する。
		市場のしくみ	需要と供給との関係について理解する。
		国民所得と私たちの生活	GDPを理解する。
		景気変動と物価の動き	インフレ、デフレが私たちの生活に与える影響を考える。
		財政のしくみと税金	財政の機能と役割を理解し、日本財政の課題を考察する。
		金融機関のはたらき	資金の流れ、金融機関の役割について理解する。
後期中間考査			
12	現代の経済社会と私たち	食の安全とこれからの日本の農業	これからの日本の農業、食料政策などの課題について考察する。
		公害の防止から環境保全へ	公害の原因とその防止策を理解する。
		消費者問題と消費者主権	消費者としての権利・義務について考察する。
		社会保障と福祉社会	社会保障制度の役割と課題について理解する。
1・2	国際経済の動向と日本の役割	国際分業と貿易	国際経済の動向を理解する。
		国際収支と為替相場	日本の国際収支の変化、為替相場の変動が及ぼす影響を考察する。
		発展途上国の経済と南北問題	発展途上国の抱えている問題を理解する。
		豊かな人生を求めて	哲学や宗教の役割を理解し、人生を豊かに生きることにについて考察する。
1・2	民主社会に生きる倫理	日本の伝統的な考え方	日本の伝統意識を理解する。
		近代の西洋社会に見られる考え方	人間の尊厳や科学的なものの考え方について理解する。
		他者とともに生きる	社会の中で他者と共に生きるために必要なことを考察する。
		ケーススタディ	震災から復興への道のり
後期期末考査			

公民科「倫理」シラバス

目 標 【学習指導要領】		人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】		知識理解に終わることなく、倫理的な考え方を身につけさせ、自己の課題として主体的に考える態度を養う。	
前期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	青年期の意義	人間とは何か	人間の発達、人間性の定義、人間のもつ多面性・二面性
		青年期とは何か	青年期の出現、第二の誕生、マージナル＝マン、友情と恋愛
	青年期の課題	自立への課題	さまざまな欲求、欲求不満と適応、防衛機制、パーソナリティの形成
		自己形成の課題	アイデンティティの確立、現代青年の課題、生きる意味
	ギリシア思想	自然哲学とソフィスト	ソリスと新たな考え方、神話から哲学へ、自然哲学から人間・社会へ
		ソクラテス	無知の知、魂への配慮
		プラトン	イデアの世界、イデアへの思慕の情、四元徳と理想国家
		アリストテレス	形相と質料、徳と中庸、正義と友愛
		ヘレニズム時代の思想	ヘレニズム時代、エピクロス派、ストア派
		古代ユダヤ教	神との契約、神が与えた律法、預言者とメシア
キリスト教	イエス	イエスの教え、愛の神、神と隣人への愛	
	キリスト教の誕生と展開	イエスの死とキリスト教の誕生、イエスの贖罪の死、パウロと信仰義認、キリスト教の発展、スコラ哲学	
イスラーム	イスラーム	イスラームの誕生、より徹底した一神教、「クルアーン」とシャリーア、イスラーム神学	
5	仏教	仏教以前のインド思想	バラモン教、輪廻と解脱
		ブッダの教え	目覚めた者、苦とその原因、無我無常と縁起、慈悲の精神
	宗教	大乘仏教の成立	教団の分裂、菩薩の理想、空の思想
		宗教の死生観	生の意味と死後の世界、キリスト教とイスラームの天国・地獄、仏教とヒンドゥー教の輪廻、現代人の関心、社会貢献の重視
	中国思想	世界宗教の姿	キリスト教の信仰世界、イスラームの世界、仏教と瞑想
		「道」の自覚－孔子	諸子百家の登場、仁と礼、徳治主義
	芸術と人生	儒家思想の展開	性善説と王道政治(孟子)、性悪説(荀子)、儒学の成立と展開
		老荘思想	万物の根源としての道(老子)、万物斉同と真人の境地(荘子)
	古代日本人の思想	美を感じる心、芸術による自己表現、芸術の意義	美を感じる心、芸術による自己表現、芸術の意義
		日本の風土と人々の生活	日本の風土と自然観、自然と人々の生活
日本の仏教思想	神との関わりと道徳観	神と祭祀、神理解の特徴、清き明き心、罪と祓え	
	仏教の受容	仏教の伝来と聖徳太子、奈良仏教の展開、平安仏教(最澄と空海)	
近世日本の思想	仏教の日本的展開 －鎌倉仏教	浄土教の展開と末法思想、専修念仏の教え(法然)、絶対他力の教え(親鸞)、禪と自力修行(道元)、「法華経」への信仰(日蓮)	
	仏教と日本文化	西行の「山家集」、宗教の生活化・風俗化、美意識と無常観	
中間考査	儒教の受容と朱子学	儒教の伝来と受容、敬の重視(林羅山・山崎闇斎)	
	日本陽明学	孝の徳(中江藤樹)	
6	西洋思想の受容と展開	日本的儒学の形成	古学の登場、土道(山鹿素行)、仁愛と忠信(伊藤仁齋)、経世済民の儒学(荻生徂徠)
		国学の形成	国学の成立(契沖と賀茂真淵)、国学の大成(本居宣長)
	日本の宗教・思想	民衆の思想	仏教の新たな展開(鈴木正三)、町人文化の隆盛、心学(石田梅岩)、農民の思想(安藤昌益と二宮尊徳)
		幕末の思想	洋学の普及と展開、幕末の思想、一君万民論(吉田松陰)
	啓蒙思想と自由民権思想	啓蒙思想、一身の独立(福沢諭吉)、自由民権運動と植木枝盛、東洋のルソー(中江兆民)	啓蒙思想、一身の独立(福沢諭吉)、自由民権運動と植木枝盛、東洋のルソー(中江兆民)
		キリスト教の受容	二つのJ(内村鑑三)
	近代自我の確立	国家主義の台頭と社会主義思想	国家主義・国粋主義、社会主義と非戦論
		近代日本哲学の成立と超国家主義	純粋経験(西田幾多郎)、間柄的存在(和辻哲郎)
	人間の尊厳	伝統の自覚と新たな課題	日本民俗学の成立と展開、文芸批評の確立(小林秀雄)、戦後思想、戦後社会の課題から
		ルネサンス	アニミズム ～ 敗戦と信仰の自由の保障
科学・技術と人間	宗教改革	人文主義、世界と日本の発見、人間中心主義	
	モラリスト	信仰のみ(ルター)、予定説(カルヴァン)	
民主社会と自由の実現	近代の自然観	わたしは何を知るか(モンテーニュ)、考える輩(パスカル)	
	新しい学問の方法 － 経験論と合理	宇宙観の転換、自然という機械	
社会と個人	民主社会の形成 － 社会契約説	知は力なり(ベーコン)、考えるわたし(デカルト)、精神と物体	
	人格の尊厳－カント	リヴァイアサン(ホブズ)、市民政府(ロック)、人民主権(ルソー)	
人間への新たな問い	人倫－ヘーゲル	批判哲学、コペルニクス的転回、道徳法則、人格としての人間	
	個人と社会との調和 － 功利主義	精神と歴史、弁証法、家族・市民社会・国家	
社会参加と幸福	社会の進歩と改善	見えざる手(アダム＝スミス)、最大多数の最大幸福(ベンサム)、功利主義の修正(ミル)	
	社会の変革－社会主義	実証主義と社会進化論、プラグマティズム、道具主義(デューイ)	
西洋近現代思想	主体性の自覚	初期社会主義とマルクス主義、労働の疎外、唯物史観、革命と改良	
	生命への畏敬と非暴力の思想	主体的真理(キルケゴール)、力への意思(ニーチェ)、実存的交わり(ヤスパーズ)、死への存在(ハイデガー)、実存は本質に先立つ(サルトル)	
現代の諸課題と倫理	理性の深層への反省	無意識の世界(フロイト)、集合的無意識(ユング)	
	言葉への反省	言語学(フシユール)、言語批判(ウイゲンシュタイン)	
生命への畏敬と非暴力の思想	理性の働きへの反省	批判的理性の復権(フランクフルト学派)、対話的理性(ハーバーマス)	
	異質なもののまなざし	未開の再発見(レヴィ＝ストロース)、理性と反理性(フーコー)、他者の尊重(レヴィナス)	
西洋近現代思想	生命の倫理	生命への畏敬(シュヴァイツァー)、非暴力の思想(ガンディー)	
	環境の倫理	公正としての正義(ロールズ)、機能と潜在能力(セン)	
現代の諸課題と倫理	家族の変容、現代家族の課題、少子化と高齢化	他者とともに生きる、連帯と幸福	
	地域社会の課題	経験主義と合理主義、近代的精神(知)の確立と批判	
現代の諸課題と倫理	高度情報化社会の課題	生命倫理、生命の始まりと終わりへの介入、脳死と臓器移植、ヒトゲノムの解読、再生医療	
	文化と宗教の課題	地球環境問題、環境破壊と自然観、動物の権利、生態系としての自然、宇宙船地球号、think globally, act locally	
期末考査	国際平和と人類の福祉の課題	家族の変容、現代家族の課題、少子化と高齢化	
		コミュニティの変容、地域社会への期待、公共圏の回復	

公民科「政治・経済」シラバス

目標 【学習指導要領】	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	基礎的・基本的事項を重点的に扱い、その定着を図る。身近な例を取り上げ、政治・経済への関心を促す。新聞記事を扱い、それについて自分の意見をまとめる活動を行うことで、社会への関心を促す。

後期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
10	現代の政治	民主政治の基本原則	<ul style="list-style-type: none"> 政治、法、権利と義務の意義を理解する。 民主政治確立までのあゆみ、それを支えた思想家の考えを理解する。 世界の政治体制の特徴を理解し、その利点を考察する。
		日本国憲法と基本的人権	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法成立までのあゆみを理解する。 日本国憲法の基本原則を理解し、その特性を考察する。 日本国憲法の自由権的基本権、法の下での平等、社会権を理解し、その必要性を考察する。 新しい権利がどのようなものか理解し、その必要性を考察する。
		日本の平和主義と安全保障	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法に定められる平和主義の原則を理解するとともに、自衛隊の役割を理解する。 日米安全保障条約の役割を考察する。
11	現代の政治	日本の政治機構	<ul style="list-style-type: none"> 国会・内閣・裁判所の役割を理解するとともに、私たちの生活との関わりを考察する。 地方自治の特徴を理解し、その必要性と現状・課題を考察する。
		現代日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> 政党政治の特徴を理解する。 マスメディアと世論のかかわりを理解するとともに、その課題について考察する。 選挙制度の特徴を理解し、政治参加のあり方について考察する。
		国際政治と日本	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会における国際法および国際機関の役割について考察する。 国際連合の機能と活動について理解する。 国際社会における日本の役割について考察する。
中間考査			
12	現代の経済	現代経済の特質	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動の意義と変容について理解する。 3つの経済主体の役割について理解する。 貨幣の役割と金融機関の役割を考察する。
		現代日本の経済	<ul style="list-style-type: none"> 日本経済のあゆみを理解する。 情報化とサービス産業の発展について理解し、その関係性について考察する。 消費者問題についてどのような事例があるか理解し、消費者の権利や義務を考察する。 社会保障制度の意義を理解し、その課題を考察する。
		国際経済と日本	<ul style="list-style-type: none"> 国際経済と貿易の進展を理解し、その課題を考察する。 為替相場のしくみと意義を理解し、その影響を考察する。
1.2.	現代政治・経済の諸課題	現代日本の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 日本の雇用について、労働者にとってはたらきがいのある社会を実現するにはどのような就労形態や賃金制度が望ましいか、考察する。
		国際社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 南北・南南問題についてその是正のためにどのような国際協力が必要にか考察する。
期末考査			

数学科「数学Ⅰ」シラバス

目標 【学習指導要領】	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導の上の留意点】	・数と式、2次関数、三角比、集合と論証、データの分析について理解し、基礎的な知識を身に付けさせる。 ・数と式、2次関数、三角比、集合と論証、データの分析に関する問題を表現・処理する技能を習熟させる。 ・数と式、2次関数、三角比、集合と論証、データの分析に関して身に付けた知識や技能を的確に活用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容	
4	1章 数と式 1節 整式	①文字式のきまり	・中学の復習をしながら、文字式のきまりに従って文字式をかく。	
		②整式	・整式の基本事項の理解を深め、同類項をまとめて式を整理する。	
		③整式の加法・減法	・同類項を整理することによって、整式の和や差を求める。減法ではかつこのはずし方に注意する。	
		④整式の乗法	・指数法則、分配法則を理解する。	
		⑤乗法公式による展開	・乗法公式を利用して式を展開する。	
		⑥因数分解	・式の展開の逆の計算であることに注意し、式を見分けて公式を活用する。	
	5	2節 実数	問題1-1	・1節の学習内容を確認し、定着を図る。
			①平方根とその計算	・中学で学んだ事項を確認し、根号を含む式の計算を行う。 ・分母の有理化を行う。
		3節 方程式と不等式	②実数	・四則演算の可能性について学び、数を拡張してきた考え方や実数の性質について理解する。
			問題1-2	・2節の学習内容を確認し、定着を図る。
			①1次方程式	・1次方程式の意味や解法について学ぶ。
			②不等式	・不等式をつくり、その意味を理解する。
③不等式の性質			・不等式の性質について理解する。両辺に負の数をかけたりわたりすると不等号の向きが変わることに注意する。	
④1次不等式			・1次方程式の解を理解し、1次不等式を解く。	
⑤連立不等式			・連立不等式を解く。	
⑥不等式的应用			・1次不等式を利用し身近な事象を考察する。	
問題1-3			・3節の学習内容を確認し、定着を図る。	
課題学習			・『誕生日当てゲーム』『数当てゲーム』を考えてみよう」, 他。	
6	2章 2次関数 1節 関数とグラフ	①1次関数とそのグラフ	・中学の復習をしながら、関数の意味と1次関数のグラフについて学ぶ。	
		②2次関数とそのグラフ	・2次関数の意味を理解する。 ・ $y = ax^2$ のグラフの特徴を理解して、グラフを正しくかく。 ・ $y = ax^2$ のグラフをy軸方向にqだけ平行移動して $y = ax^2 + q$ のグラフをかく。 ・ $y = ax^2$ のグラフをx軸方向にpだけ平行移動して $y = a(x-p)^2$ のグラフをかく。 ・ $y = ax^2$ のグラフをx軸方向にp、y軸方向にqだけ平行移動して $y = a(x-p)^2 + q$ のグラフをかく。 ・ $y = x^2 + bx + c$ を $y = (x-p)^2 + q$ の形に変形して、グラフをかく。 ・ $y = ax^2 + bx + c$ を $y = a(x-p)^2 + q$ の形に変形して、グラフをかく。	
			問題2-1	・1節の学習内容を確認し、定着を図る。
		2節 2次関数の値の変化	①2次関数の最大値・最小値	・2次関数のグラフをかいて、最大値・最小値を求める。 ・定義域に制限がある場合の最大値・最小値を求める。 ・2次関数を利用して、身近な応用問題を解く。
			②2次関数のグラフと2次方程式	・2次関数のグラフと2次方程式との関係を学ぶ。
			③2次関数のグラフと2次不等式	・2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解く。
	問題2-2		・2節の学習内容を確認し、定着を図る。 ・「売上金額の最大値を求めてみよう」, 他。	
	課題学習			
	前期期末考査			
	7-9	3章 三角比 1節 三角比	①三角形	・相似な三角形、三平方の定理などについて復習し、確認する。
			②三角比	・ $\tan A$ の記号とその意味を理解する。
			③三角比の利用	・ $\sin A$ と $\cos A$ の記号とその意味を理解する。 ・ $\tan A$, $\sin A$, $\cos A$ を図形の計量に利用する。
④三角比の相互関係			・ $\tan A$ と $\sin A$, $\cos A$ の関係や $\sin A$ と $\cos A$ の関係を学び、図形の計量に活用する。	
問題3-1			・1節の学習内容を確認し、定着を図る。	
2節 三角比の応用			①三角比の拡張	・座標を用いて、三角比を 0° から 180° まで拡張し、鈍角の三角比の値を求める。 ・拡張された三角比の相互関係について学ぶ。
		②三角形の面積	・2辺とその間の角の正弦を用いて、三角形の面積を求める。	
		③正弦定理	・正弦定理を学び、三角形において活用する。	
		④余弦定理	・余弦定理を学び、三角形において活用する。	
		⑤正弦定理と余弦定理の利用	・正弦定理、余弦定理を利用し、平面や空間における2点間の距離や高さを求める。	
		問題3-2	・2節の学習内容を確認し、定着を図る。 ・「角度を変えて斜面を滑ろう」, 他。	
課題学習				
後期中間考査				
10	4章 集合と論証 1節 集合	① 集合と要素	・部分集合や、全体集合と補集合についてベン図を用いて理解する。 ・共通部分と和集合を、ベン図を用いて理解する。 ・空集合を理解する。	
		問題4-1	・1節の学習内容を確認し、定着を図る。	
		2節 命題と証明	①命題	・命題の真偽を調べる。 ・集合を用いて命題の真偽を調べる。 ・必要条件・十分条件について理解する。 ・命題の逆をつくり、その真偽を調べる。 ・命題の対偶をつくる。
			②いろいろな証明法	・対偶による証明・背理法による証明を学ぶ。
			問題4-2	・2節の学習内容を確認し、定着を図る。 ・「何票とると当選？」, 他。
		課題学習		
	5章 データの分析 1節 データの分析	①統計とグラフ	・いろいろな調査などによって得られたデータを棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフなどにまとめる。	
		②度数分布表とヒストグラム	・度数分布表・ヒストグラムについて学ぶ。	
		③代表値	・与えられたデータの平均値、中央値、最頻値を求める。 ・与えられたデータの四分位範囲や四分位偏差を求める。	
		④データの散らばり	・与えられたデータを5数要約し、箱ひげ図に表す。 ・与えられたデータの分散や標準偏差を求める。	
		⑤相関関係	・2つのデータを散布図に表す。 ・相関関係を把握し、相関係数を求める。	
		問題5-1	・2節の学習内容を確認し、定着を図る。 ・「紙テープを切ってデータを分析してみよう」, 他。	
課題学習				
後期末考査				

理科「科学と人間生活」シラバス

目標 【学習指導要領】	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	基本的な概念や原理・法則を理解する。 自然の事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。 科学的な自然観を育成する。 現在及び将来における科学の課題と身近な人間生活との関わりについて考察し、環境問題などへの理解を深める。

前期 月	後期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	10	1章 科学と技術の発展	1 科学と技術のはじまり	現代の科学技術文明が科学によって支えられ、発展してきたこと、科学技術と科学を切り離して考えることができないことを理解する。
			2 生物学と医療	医療の発展について知る。また、病気の理解と医療の発展が、生物学と密接に関わっていることを理解する。
			3 化学の魅力	古代より考えられていた物質の成り立ちについて歴史的な流れを追いながら考察する。 歴史的な経過とともに、化学の基本を紹介する。 科学技術の発達により人類によって生み出された人工の物質について考える。
5	11	2章 物質の科学 1節 材料とその再利用	1 物質のなりたち	身の回りの物質がどのような成り立ちでできているかを理解する。 物質の最小単位が原子であることを理解し、その組み合わせにより非常に多くの物質が生まれ、性質も決定されることに気付く。
			2 セラミックス	セラミックスは、古代から現代の最先端技術まで、いろいろな場面で使われていることを理解する。
			3 金属の用途と精錬	金属は古くから我々の生活になじみ深いものであることに気付く。 鉄・アルミニウム・銅などの製錬法についても理解する。
			4 金属の特性	金属がどのような場面で使用されているかを理解する。 金属の性質に関連して、利用や腐食の防止について考察する。
			5 プラスチック	プラスチックは人工的に作り出された材料であることに気付く。 プラスチックの性質・特徴について学習する。
			6 プラスチックの分類とその他の高分子化合物	プラスチックの用途や特徴について、実験を通して理解する。 プラスチックに含まれる成分の違いや、構造の違い、安全性についても考察する。
			7 プラスチックのリサイクルと新素材	プラスチックの有効利用が必要であることに気付く。 ある性質に特化したプラスチックが製造され、生活に役立っていることを学習する。
		3章 生命の科学 1節 生物と光	1 光合成	光合成の場である葉緑体について、観察を通して学習する。 光合成の概要および光合成産物の行方について理解する。
			2 光合成と光の色	光の吸収に係わっている光合成色素の種類について、実験を通して理解する。 身のまわりで見られる葉の色はさまざまであり、色素の種類に関わっていること気づく。
			3 光の強さと光合成速度	光の強さと光合成速度の関係について学習し、光補償点や光飽和点があることを理解する。 植物の中には、陽生植物と陰生植物があることについて学習する。
			4 植物の生育と光	植物には、光屈性があることを、発芽した大根などを用いた実験を通して理解する。 発芽や開花のしくみに光が関わっている植物があることを学習する。 季節変化と植物の花芽形成について学習する。
			5 動物の行動と光	光走性を持つ生物の行動を、実験を通して理解する。 1日の明暗変化や季節変化が動物の行動に影響していることを理解する。
			6 ヒトの生活と光	日光がヒトの健康に役立つことも学習する。
			7 眼の構造と働き	ヒトの眼の構造や、光刺激を受けてから脳に情報が伝わるまでの経路を理解する。 明暗への順応や遠近調節などについて、実験を通して理解する。
中間考査				
6	12	4章 光や熱の科学 1節 光の性質とその利用	1 光の直進性と反射	光の直進性について、観察を通して学習し、光を直線で表現できることを理解する。 光の反射の法則を実験によって理解し、乱反射によって身の回りを見ることができることを理解する。
			2 光の屈折	屈折の法則を理解するとともに、屈折現象から光の進む物質が異なることを意識する。 屈折を利用して、レンズがつくられていることを理解する。
			3 レンズと像	凸レンズを通る物体からの光の関係を学習し、おのおののレンズでできる像について理解する。
			4 光のスペクトルと電磁波	白色光の分散は、光の性質によってできそれのできるスペクトルは、光の波長によることを理解する。 可視光は電磁波の一種であり、また、電磁波は波長の違いによって様々な利用されていることを知る。
			5 光の回折と干渉	波の特性としての回折と干渉について実験を通して学習し、光が波であることを理解する。
			6 光の偏光性	偏光について、光が波であることをもとに理解する。 物質と偏光との関係を学習し、その利用について知る。
			7 電磁波を利用	光を使っているいろいろなものを見ることができること、光は電磁波の一種であることから電磁波を使って様々なものを見ることができることを理解する。 光でものを見るだけでなく、その利用の歴史を知ること、情報伝達の手段として役立っていることを理解する。 光に関わる技術の進歩により、幅広く利用されていることを学習させる。
7	1	5章 宇宙や地球の科学 2節 身近な自然景観と自然災害	1 自然景観のでき方	身近な自然景観が風化作用、浸食・運搬・堆積作用などにより、長い時間の中で変化してきたことを理解する。
			2 地形の変化	身近な地域の自然景観を、流水の作用など大地を平坦にする変化と、火山活動など大地の起伏を大きくする変化を関連付けて学習する。
			3 日本列島をつくった作用	地震や火山分布がプレートの境界面で起きていることを理解する。
			4 日本列島の特徴	日本列島の地質的な特徴をプレートテクトニクス等で理解する。 日本列島の地質的な特徴である「島弧-海溝系」や現在の日本列島の特徴を知る。 地殻変動によって私たちに多くの恵みがもたらされていることを理解させる。
			5 火山のしくみと災害	火山のメカニズムを学習し、火山災害を引き起こす現象を理解する。
			6 地震のしくみと災害	地震のメカニズムを学習し、地域において将来起こる可能性のある地震のタイプや規模などを確認する。
			7 気候のしくみと特徴	日本列島の気候的な特徴を概観し、私たちの生活とのかかわりを理解する。
			8 気象の恵みと災害	気象災害によってもたらされる恵みと気象災害を学習し、地域で過去に起きた災害などについて知る。
9	2	6章 これからの科学と人間生活 期末考査	これからの科学・技術と人間	科学技術の成果と今後の課題についてまとめ、科学技術と人間生活との関わりについて考えてみる。

理科「物理基礎」シラバス

目標 【学習指導要領】	物理的な事物・現象を体得する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	実験や観察を通して、原理や法則への理解を深める 演習実験や視聴覚教材などを用いて、直感的理解を助ける。 課題プリントなどで演習問題を適宜行い、理解の定着を図る。

前月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	1章 物体の運動	1節 運動の表し方	直線運動における変位、速度、加速度などの運動の表し方を理解する。 相対速度や速度の合成の学習を通して、速度がベクトル量であることを理解する。 等加速度運動における「時間と変位」「時間と速度」の関係を理解する。 空気抵抗がなければ、質量や体積によらず、一律に自由落下することを理解する。 自由落下運動や鉛直投げ下ろし運動、鉛直投げ上げ運動の「時間」「速度」「変位」の関係式を理解する。 水平投射運動や斜方投射運動について定性的に理解する。
		2節 力	力とは何か理解する。 重さと質量の違いを理解する。 固体には弾性があり、一般にはフックの法則に従うことを理解する。 力の合成、分解、つり合いなど、力の性質を理解する。 作用反作用の法則を理解する。 摩擦力、抵抗力、浮力などのさまざまな力について理解する。
5	2章 エネルギー	3節 運動の法則	慣性の法則を理解する。 力と加速度の関係を理解し、運動の法則を理解する。 運動方程式を立てて、物体の運動の様子を調べる。
		1節 運動とエネルギー	エネルギーと仕事の基礎概念を理解する。 仕事と仕事率について理解する。 運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し、一定の条件のもとで力学的エネルギーが保存することを理解する。
6	3章 波	2節 熱とエネルギー	巨視的に見た熱の正体、微視的に見た熱の正体を理解する。 物質の三態や温度について理解する。 熱容量や比熱について理解する。 熱力学第一法則について理解する。 熱機関について理解する。 不可逆現象について理解する。
		中間考査	
7	4章 電気	1節 波の性質	波とは、媒質の振動が次々と時間をかけて伝わっていく現象であることを理解する。 波の式 $v = f\lambda$ を理解する。 波には横波と縦波があることを理解する。 波の反射について理解する。
		2節 音と振動	音の伝わり方は、波の性質を示すことを理解する。 定常波の知識から、発音体の振動を理解させ、そこから発せられる音との関係を考えられる。 波の重ね合わせから、うなりについて理解する。 気柱の共鳴や共振について理解する。
9	5章 人間と物理	1節 電流の流れ方	静電気について理解する。 電流と電気量について理解する。 オームの法則や電気抵抗の直列接続、並列接続について理解する。 金属の抵抗率について理解する。 電力、電力量やジュールの法則について理解する。 半導体の基本的な性質について理解する。 半導体はさまざまな機器で利用されていることを理解する。 電力・電力量やジュールの法則について理解する。
		2節 電気の利用	直流と交流の違いを理解する。 電磁誘導について理解する。 送電と変圧について理解する。 家庭での交流の利用に関連し、実効値について理解する。 電波の性質について理解する。
9	5章 人間と物理	1節 エネルギーとその利用	エネルギーの変換やエネルギー保存の法則について理解する。 物質の基本的な構成単位として、元素や原子核について理解する。 放射能・放射線について理解する。このとき、放射能・放射線の単位や放射線の利用法、その安全性について理解する。
		2節 物理学が拓く世界	物理学と科学技術の関係について理解する。 物理学と環境・防災の関係について理解する。
期末考査			

理科「化学基礎」シラバス

目 標 【学習指導要領】	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	実験や観察を通して、原理や法則への理解を深める 演示実験や視聴覚教材などを用いて、直感的理解を助ける。 課題プリントなどで演習問題を適宜行い、理解の定着を図る。

前期 月	後期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	10	序章 科学と人間生活	物質の構成	日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通して、化学に対する興味・関心を高める。 日常生活や社会において物質が適切に使用されている例を通して、化学が果たしている役割を理解する。
			物質の利用	
5	11	1章 物質と化学結合	物質の性質と役割	物質の分離・精製や元素の確認などの実験を通して、単体、化合物及び混合物について理解するとともに実験における基本操作と物質を探究する方法を見につける。 粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解する。
			1節 物質の探求	
		2節 物質の構成粒子	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。 元素の周期律及び電子配置と周期律の属や周期との関係について理解する。	
		2章 物質と化学結合	1節 イオン結合 2節 共有結合 3節 金属結合 4節 粒子の結合と結晶	
中間考査				
6	12	3章 物質の変化	1節 物質質量と化学反応式	物質質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。
7	1		2節 酸と塩基	酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。
9	2		3節 酸化還元反応	酸化と還元が電子の授受によることを理解する。また、酸化還元反応と日常生活や社会とのかわりについて理解する。
期末考査				

理科「生物基礎」シラバス

目標 【学習指導要領】	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	身近な自然の事物・現象の中から事例を取り上げ、基本的な概念や原理・法則の理解をすすめる。 観察や実験等を多く行い、科学的に調べる能力や考える態度の育成をはかる。 報告書の作成・発表にも取り組ませる。

前期 月	後期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容		
4	10	1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性	1 多様な生物とその祖先	生物は多様でありながら、共通性があることを理解させる。生物の分類について理解する。		
			2 生物に共通する特徴	生物の共通性の由来(生物の進化)を理解する。		
			3 細胞の構造と働き	全ての生物が細胞から成り立っていること、細胞がいろいろな細胞小器官から成り立っていることを理解する。 原核細胞と真核細胞の違いや、単細胞生物と多細胞生物を比べることで、からだを作る細胞が一樣でないことを知る。 細胞の観察を行うことができる。		
		2節 細胞とエネルギー	1 代謝とエネルギー	体内の化学反応がATPを仲立ちとして行われることを理解する。 同化と異化の違いについて理解する。		
			2 酵素	体内で酵素がはたらいていること、そしてそのはたらきについて理解する。 実験を通して酵素の性質をまとめることができる。		
3 光合成	光合成は光エネルギーを化学エネルギーに変換して無機物から有機物を合成する反応であることを理解する。光合成色素分離することができる。					
4 呼吸	呼吸は有機物からエネルギーを解離してATPを生成する反応であることを理解する。					
5 ミトコンドリアと葉緑体の起源	ミトコンドリアや葉緑体が細胞内共生をすることで生まれたことを理解する。					
5	11	2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA	1 ゲノムと遺伝子	ゲノムとは何かを理解する。		
			2 DNA研究の歴史	過去のDNA研究について知り、どのようにしてDNAが遺伝情報を担っている物質であるとわかったかを理解する。 形質転換、バクテリオファージの増殖などの証拠をもとに、遺伝子の本体がDNAであることを理解する。		
			3 DNAの構造	DNAの構成要素や二重らせん構造について理解する。 DNAの構造の模型をつくり、構造を理解する。		
		2節 遺伝情報の分配	1 細胞分裂とDNA	体細胞細胞分裂時の染色体の状態、細胞周期とDNA量の変化を理解する。		
		3節 遺伝情報とタンパク質の合成	1 遺伝子とタンパク質	生体に含まれる多くのタンパク質は、遺伝子によりアミノ酸配列が決定されることで合成されることを理解する。		
2	12	2 タンパク質の合成	2 タンパク質の合成	DNAの塩基配列をもとにタンパク質が合成される過程で中立ちをしているRNAの特徴を理解する。		
			3 遺伝子の発現	細胞では、必要なタンパク質が発現するよう調節されていることを理解する。 転写や翻訳によりDNAの塩基配列の情報どおりにアミノ酸が作られることを理解する。		
			遺伝子研究とバイオテクノロジー	遺伝子研究がどのように身の回りのものに利用されているかを知る。		
		中間考査				
		3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境	1 体内環境と恒常性	1 体内環境と恒常性	恒常性について、体内ではさまざまな働きがあることを理解する。	
2 体液とその働き	体液の循環や心臓の構造とはたらき、ヘモグロビンのはたらきを理解する。 血液凝固のしくみについて理解する。					
3 体液の調節～腎臓と肝臓～	腎臓の構造とはたらき、肝臓のはたらきについて理解する。また、恒常性を維持することに2つがどう関わっているか理解する。					
2節 体内環境の維持のしくみ	1 自律神経系による調節		自律神経系のはたらきについて理解する。			
	2 ホルモンによる調節		内分泌腺とそこが出すホルモン、それぞれのホルモンのはたらきについて理解する。			
	3 自律神経系とホルモンによる調節	血糖量の調節を理解し、糖尿病など健康との関連についても理解する。				
3節 免疫	1 生体防御と免疫	生体内には病原菌などの異物を認識し、排除して体内環境を保つしくみがあることを理解する。				
	2 免疫のしくみ	免疫に関わる細胞とそのはたらきについて理解する。また身近な疾患と免疫反応のしくみについて理解する。				
	3 ヒトと免疫、人類と感染症	免疫の応用について代表的な例をもとに理解する。また人類と感染症との戦いの歴史について理解する。				
7	1	4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	1 生物と環境のかかわり	植物の生活と環境との間にどのような関わりがあるかを理解する。 光合成速度が光の強さなどの外部環境の影響を受けていることを理解する。		
			2 植生とその構造	森林を中心として、階層構造について理解する。また草原の生産構造について理解する。		
			3 遷移と極相	光や水、土壌との関係の中で、植生が少しずつ移り変わっていき遷移していくことを理解する。		
		2節 気候とバイオーム	1 バイオームの分布	気温と降水量の違いによって、地球上にはさまざまなバイオームが成り立つことを理解する。 日本のバイオームについては、気温の違いによって成り立っていることを理解する。		
			世界のバイオーム・日本のバイオーム	世界や日本のバイオームの様子について具体的に理解する。		
3節 生態系と物質循環	1 生態系	生態系の概念について理解する。				
	2 エネルギーの流れと物質循環	食物網やそれを通しての物質循環やエネルギーの流れを理解する。				
9	2	4節 生態系のバランスと保全	1 生態系のバランス	生態系の持続性について理解する。		
			2 人間生活と生態系の変化	生態系のバランスは常に変動していること、またその変動の幅は一定であることを理解する。		
			3 生態系の保全	環境の保全と復元・生態系の保全の意義を把握させる。		
期末考査						

理科「地学基礎」シラバス

目標 【学習指導要領】	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	身近な自然の事象・現象の中から事例を取り上げ、基本的な概念や原理・法則の理解をすすめる。 観察や実験等を多く行い、科学的に調べる能力や考える態度の育成をはかる。 報告書の作成・発表にも取り組ませる。

前期 月	後期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容		
4	10	序章 宇宙・地球・人間	宇宙・地球・人間	宇宙誕生から人類の出現までを大まかに見て全体像を捉える。その中で宇宙の中で人類の位置を確認する。		
		1章 地球の構成と運動	1 地球の形と大きさを調べる	地球の形や大きさについて、どのような方法で調べたのかを理解する。		
			1節 地球の形と大きさ	2 地球の形	地球の大きさや形について計算する方法を理解する。 地表のようすについて理解する。ジオイドについて知る。	
				2節 地球内部の構成	1 地球内部の層構造	地球の内部の層構造について理解する。地殻がマントルに浮いていることを理解する。
		2節 地球内部の構成	2 地球内部を構成する物質	地球内部の組成を地殻・マントル・核の違いを意識しながら理解する。 海洋地殻と大陸地殻の違いを理解する。		
			3 地殻を構成する物質	地殻は岩石からできていることを理解する。 火成岩、堆積岩、変成岩の岩石の分類やでき方、性質などを理解する。 鉱物が一定の化学組成をもつ結晶であることを理解する。		
		3節 プレートの運動	1 プレートテクトニクス	世界の地震分布や火山分布について理解する。それと地震活動や火山活動を統一的に説明するプレートテクトニクスについて理解する。 それを発展させたブルームテクトニクスについても理解する。		
			2 大地形の形成	造山運動がプレート運動であること、日本の地形が島弧-海溝系であることを理解する。		
		5	11	4節 火山と地震	1 火山活動	マグマの性質により、火山噴火の様式や噴出物、火山の形などが異なることを実習を通して理解する。
					2 地震活動	地震波の伝わり方や地震の大きさ、地震と地殻変動について理解する。 地震によっておこるさまざまな被害について知る。
2章 地球の変遷	1節 地層と化石			1 地層のでき方	地層のでき方、重なりが時間の経過を現していることを理解する。	
				2 地質構造の形成	地質構造の変形を見ると、古い時代に起こった地殻変動がわかることを理解する。	
				3 化石と地質時代の区分	化石からわかる生物の変化にもとづいて地質時代が区分されること、相対年代と数値年代があることを理解する。	
2節 古生物の変遷と地球環境	1 初期生命大気の変化			先カンブリア時代に起こった生命の誕生や酸素の蓄積による地球の大気の変化、そしてその後の進化について理解する。		
	2 多様な生物の出現と脊椎動物の発展			多様な生物が出現し、脊椎動物の上陸が起こった古生代について理解する。 は虫類が大繁栄し大量絶滅が起こった中生代について理解する。		
	3 哺乳類の繁栄と人類の発展			哺乳類が繁栄し、その中から人類が誕生した新生代について理解する。 ヒトの進化について、直立二足歩行などのヒトの特徴について理解する。		
中間考査						
6	12			3章 大気と海洋	1節 大気の構造と運動	1 大気
		2 大気の構造				
		3 大気中の水とその状態	飽和蒸気圧や露点温度について理解する。			
		4 大気の状態 5 雲	大気の変化、雲のでき方を理解する。			
		2節 大気の大循環	1 地球のエネルギー収支	太陽放射と地球放射によって地球全体のエネルギー収支のバランスがとられていることを理解する。 気温の日変化による風の変化について理解する。		
			2 大気の大循環		受熱量の違いにより、大気とエネルギーが循環していること、その際に起こる風が、天気の変化をもたらすことを理解する。	
			3 温帯低気圧と熱帯低気圧		低気圧の発生する状況や特徴について理解する。	
			4 海洋の構造と海水の運動		1 海洋の層構造	海洋にも層構造があることを理解する。
		2節 海洋の構造と海水の運動	2 海水の運動と循環	海水の循環、地表における水循環について理解する。		
			4節 日本の四季の気象と気候	1 気象と気候 2 日本の四季	気団の動きが季節変化をおこすもとになっていることを理解する。	
7	1	4章 太陽系と宇宙	1節 太陽系の中の地球	1 太陽系の概観	太陽系の広がりや太陽系の天体について理解する。 太陽系の惑星を地球型惑星と木星型惑星に分類し、それぞれの惑星の特徴を理解する。また、他の天体の特徴についても理解する。 太陽系の惑星の形成過程と、惑星の内部構造との関係や、地球や月の誕生について理解する。 地球における生命誕生の条件について理解する。また、宇宙生命の探査について知る。	
				2 太陽系の誕生と惑星の分類		
				3 太陽系の天体の素顔		
				4 惑星の構造		
		2節 太陽とその進化	1 太陽のすがた 2 太陽をつくる物質とエネルギー	太陽の光球面や太陽大気で起っている現象を知り、太陽の特徴を理解する。また、太陽で起こる核融合反応について理解する。 太陽の明るさやフレアとそれが地球に及ぼす影響について理解する。 太陽の誕生とこれからについて理解する。		
			3 太陽の明るさと活動			
			4 太陽の誕生 5 これからの太陽			
			3節 宇宙のすがた		1 宇宙の構造	銀河系の構造について理解する。宇宙に銀河系が多く存在すること、宇宙には階層構造が存在することを理解する。
		2節 宇宙の誕生	2 宇宙の誕生	宇宙の誕生後、ビッグバンにより宇宙の膨張が始まり、38万年後に宇宙の晴れ上がりが起こったことを理解する。		
			5章 地球の環境	1節 日本の自然環境	1 日本列島がつくる自然の特徴	日本列島の地形や特徴を復習する。日本の四季の特徴について知る。 日本で起こる災害と防災、自然がもたらす恩恵について知る。
2 日本列島を襲うさまざまな自然災害						
3 自然がもたらす災害と恩恵						
2節 地球環境の科学	1 環境問題と自然変動	地球規模で発生している環境問題について知り、国際協力のあり方や環境管理のあり方について考えることができる。				
	2 気候変動と温暖化					
3 地球規模の物質循環						
4 地球環境問題と未来の地球						
期末考査						

保健体育科「体育」シラバス

目標 【学習指導要領】	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を高める。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	・ルールやマナーの意識を踏まえ競技の構成要素やルールを理解し、自分の課題解決を図りながら楽しむことができる。 ・競技特性に応じた正しい技術を身につけることができる。 ・日頃の学習態度と共に運動の基本や競技の基本を練習し、ルールや運動の楽しみ方を理解することができる。

男子(前期)	月	単元/章	学習項目	目標/学習内容	
男子(前期)	4	・オリエンテーション	・オリエンテーション ・体ほぐしの運動	・必修修と単位修得についての説明を理解することができる。 ・導入としてやや活発な運動をする。	
	5	・サッカー	体ほぐしの運動 ・田圃でのボールリフティング等・ボールコントロール	・ボールに親しみ慣れることができる。・様々な方向への素早い移動と、ストップ運動を行うことができる。	
			・グリッドからのけり出しゲーム		
			基本技術① ・インステップキック、インサイドキック	・ボールをしっかり止め、けり方を使い分けてできるだけ正確に蹴ることができる。	
			・ドリブル トラップ		
			ミニゲーム(簡易ゲーム)	・持っている技術を駆使してゲームを楽しむことができる。	
	6	・サッカー	基本技術② ・三角パス 移動しながらのパス	・メンバーの動きを想定したり、スペースを考えてパスすることができる。	
			・シュート パスからのシュート	・ゴール内に正確にシュートすることができる。	
			正式ルールでのゲーム ・自分のポジションを考えたプレー	・ポジションの役割を理解し、メンバーと協力してゲームを楽しむことができる。	
	前期中間考査				
	7-9	・ソフトボール	体ほぐしの運動 ・テニスボールを使ったキャッチ運動	・テニスボールを素手で受けたり、投げたりすることができる。	
			基本技術① ・グローブの使い方、ボールの投げ方	・グローブを使って正確にボールをキャッチしたり、正確に投げるができる。	
基本技術② ・キャッチボール ゴロ処理			・キャッチからスローイングまでの一連の動作をリズムカルにできる。		
ゲーム形式での練習 ・バッティング ベースランニング			・ゲームでの守備や攻撃の方法を理解し、正しくプレーすることができる。		
簡易ルールでのゲーム ・攻撃時間を決めてのゲーム等			・飛んできたボールの処理の方法を的確に行い、メンバーと協力してゲームを楽しむことができる。		
前期末考査					

男子(後期)	月	単元/章	学習項目	目標/学習内容	
男子(後期)	10	・オリエンテーション	・オリエンテーション ・体ほぐしの運動	・必修修と単位修得についての説明をする。 ・導入としてやや活発な運動をする。	
	11	・バレーボール	体ほぐしの運動	・バレーボールに慣れることができる。	
			ボールを使ったさまざまなキャッチ動作	・ボールの真下に移動ができ、両手で正しくキャッチができる。	
			基本技術①(2人組)	・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパスについて理解することができる。	
			・オーバーハンド、アンダーハンドパス	・体の正面でボールをとらえ、力の加減や方向を調節して、できるだけ正確にパスを連続させることができる。	
			アンダー、オーバーを活用してパス連携	・相手コートにサーブを正確に入れることができたり、そのボールをレシーブすることができる。	
			基本技術②	・アンダーハンドサーブからのレシーブの動きができる。	
			アンダーハンドサーブ、レシーブ	・サーブは腰の位置で打ち、レシーブは特に腰の位置を低くすることができる。	
			基本練習①	・パスはオーバーハンドによるコントロールができる。	
			円陣パス ポジションに着いてのパス	・声を掛け合い、カバーし合いながらパスを続けることができる。	
			基本練習②	・トスパスはオーバーハンドパスでできる。	
	12	・バレーボール	レシーブトスパスの 3段攻撃	・レシーブを正確にセッターにパスすることができ、3段攻撃で相手コートにボールを入れることができる。	
			簡易ルールでのゲーム	・サーブに対し、正確なポジションをとってのレシーブとパスを駆使しながら、相手コートにボールを返球することができるとともに、メンバーと協力してゲームを楽しむことができる。	
			ポジションの固定	・6人制3-3システムを基本とする。	
			正式ルールでのゲーム	・15点1セットとする。	
	後期中間考査				
	1	・バスケットボール	体ほぐしの運動 ・各種鬼ごっこ運動	・様々な方向への素早い移動と、ストップ運動を行うことができる。	
			基本技術①(2人組) ・チェストパス、オーバーパス、バウンスパス	・相手にむかって素早く正確なパスを連続させることができる。	
基本技術② ・ドリブルシュート セットシュート フリースロー			・ゴールにできるだけ近づき、正確なシュートができる。		
基本練習① ・攻防からのシュート(1対1 2対2 3対3)			・相手の防衛をくずしパスをつなぎながらシュートすることができる。		
簡易ゲーム ・ハーフコートでの3対3			・安全に留意しながらメンバーと協力してゲームを楽しむことができる。		
正式ルールでのゲーム ・フルコートでの5対5			・安全に留意しながらメンバーと協力してゲームを楽しむことができる。		
後期末考査					

女子 (前期)	月	単元/章	学習項目	目標/学習内容		
4	5	・バドミントン	・オリエンテーション	・必修と単位修得についての説明を理解することができる。		
			・体ほぐしの運動	・導入としてやや活発な運動をする。		
			ラケットの扱い方 ・個人での連続打ち上げ	・正しいラケットの扱い方を理解し、相手に向かって正確にシャトルを打ち返すことができる。		
			基本打法① ・クリヤー、ドライブ	・クリヤーやスマッシュなどのテクニックを駆使して、ゲームを楽しむことができる。		
			ルールを工夫しての簡易ゲーム ・シングルス・ハーフコート	・ハーフコートはダブルスラインを利用してゲームを楽しむことができる。		
			基本打法② ・スマッシュ、ヘアピン、サーブ	・サーブを工夫して打つことができ、ゲームでの活用ができる。		
			正式ルールでのゲーム ・シングルス・ダブルス	・審判などの役割を分担してお互いの責任を果たしながら、ゲームを楽しむことができる。		
			前期中間調査			
			7・9	・ソフトバレー	体ほぐしの運動 ・ボールを使ったさまざまなキャッチ運動	・ボールの真下に移動ができ、両手で正しくキャッチができる。
					基本技術①(2人組) ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパス	・体の正面でボールをとらえ、力の加減や方向を調節して、できるだけ正確にパスを連続させることができる。
・アンダー、オーバーを活用してのパスの連続	・相手コートにサーブを正確に入れることができたり、そのボールをレシーブすることができる。					
基本技術② ・アンダーハンドサーブ、レシーブ	・声を掛け合い、カバーし合いながらパスを続けることができる。					
基本練習① ・円陣パス ポジションに着いてのパス	・レシーブを正確にセッターにパスすることができ、3段攻撃で相手コートにボールを入れることができる。					
基本練習② ・レシーブとスパスの3段攻撃	・サーブに対し、正確なポジションをとってのレシーブとパスを駆使しながら、相手コートにボールを返球することができるとともに、メンバーと協力してゲームを楽しむことができる。					
簡易ルールでのゲーム ・ポジションの固定	・ネットの高さは、2m～2m15を活用できる。					
正式ルールでのゲーム ・ポジションのローテーション	・レシーブはオーバーハンドを多用しスパイクに続くことができる。					
前期期末調査						

女子 (後期)	月	単元/章	学習項目	目標/学習内容
10	11	・卓球	・オリエンテーション	・必修と単位修得についての説明を理解することができる。
			・体ほぐしの運動	・導入としてやや活発な運動をする。
			自分に適したラケットの持ち方 ・ピンホルダー、シェークハンド	・自分に合ったラケットの持ち方を見つけ、相手に向かって正確に返し、ラリーを続けることができる。
			基本打法① ・バックサイドのストローク	・正しいフォームを身につけることができる。
			・フォアサイドのストローク ・サービス、レシーブ	・ボールハスピンをかけることを工夫したり、変化するボールの返球を工夫して楽しくゲームすることができる。
			ルールを工夫しての簡易ゲーム	・相手によりハンディをつけ、得点は11点を基本としゲームを楽しむことができる。
			基本打法② ・スマッシュ、カット	・正しいフォームを身につけることができる。
			正式ルールでのゲーム ・シングルス・ダブルス	・審判などの役割を分担してお互いの責任を果たしながら、ゲームを楽しむことができる。
			トーナメント試合	・楽しくゲームに参加できるように個々人の能力を発揮することができる。
			後期中間調査	
12	1	・バスケットボール	体ほぐしの運動 ・各種鬼ごっこ運動	・様々な方向への素早い移動と、ストップ運動を行うことができる。
			基本技術①(2人組) ・チェストパス、オーバーパス、バウンスパス	・相手にむかって素早く正確なパスを連続させることができる。
			基本技術② ・ドリブルシュート セットシュート フリースロー	・ゴールにできるだけ近づき、正確なシュートができる。
			基本練習① ・攻防からのシュート(1対1 2対2 3対3)	・相手の防御をくずしパスをつなぎながらシュートすることができる。
			簡易ゲーム ・ハーフコートでの3対3	・安全に留意しながらメンバーと協力してゲームを楽しむことができる。
正式ルールでのゲーム ・フルコートでの5対5	・ファールやバイオレーションを適応、更にゲームを楽しむことができる。			
後期期末調査				

男女合同 (前期のみ)	月	単元/章	学習項目	目標/学習内容
	4	オリエンテーション	オリエンテーション	・必修と単位修得について理解することができる。 ・導入としてのやや活発な運動ができる。
体ほぐしの運動			・正しく待つことができる。	
卓球		自分に適したラケットの持ち方 ペンホルダー、シェークハンド	・自分に合ったラケットの持ち方を見つけ、相手に向かって正確に打ち返し、ラリーを続けることができる。	
		基本打法①	・使用の意味を理解できる。	
		・バックサイドのストローク	・正しいフォームで打つことができる。 ・上体はあまり傾けないで打つことができる。	
		・フォアハンドストローク	・ボールの上部を擦り上げる様に打ち、ロングストロークも練習することができる。	
		・サーブ、レシーブ	・相手に斜めにサーブし最初は返球し易い様に打つことができる。	
		ルールを工夫しての簡易ゲーム	・ボールヘスピンをかけることを工夫したり、変化するボールの返球を工夫して楽しくゲームすることができる	
		基本打法②	・使用の意味を理解できる。	
		・スマッシュ、カット	・相手に取りやすいように打つことができる。 ・カットも同様に打ち返しやすいうように打つことができる。	
		正式ルールでのゲーム	・審判などの役割を分担してお互いの責任を果たしながら、ゲームを楽しむことができる。	
		・シングルス、ダブルス トーナメント試合	・得意打法を使いゲームを楽しむことができる。 ・正しいルールでゲームを楽しめることができる。	
前期中間考査				
7-9		バドミントン	ラケットの扱い方	・正しいラケットの扱い方を理解し、相手に向かって正確にシャトルを打ち返すことができる。
			・個人での連続打ち上げ	・打法について理解できる。
			基本打法①	・クリアはより距離を求め、ドライブは正確に打つことができる。
			・クリアー、ドライブ	・クリアーやスマッシュなどのテクニックを駆使して、ゲームを楽しむことが、出来る。
			ルールを工夫しての簡易ゲーム	・サイドラインはダブルスコートを利用してゲームを楽しむことができる。
			・シングルス・ハーフコート	・クリアーとドライブだけでも武器になることを理解しゲームを楽しむことが、できる。
			・シングルス・フルコート	・打法について理解できる。
	基本打法②		・スマッシュは特に打点に留意し、カットはクリアーと同じフォームで打つことができる。	
	・スマッシュ、カット、ヘアピン		・ショートサーブを工夫して打つことができ、ゲームでの活用ができる。	
	サーブ		・審判などの役割を分担してお互いの責任を果たしながら、ゲームを楽しむことができる。	
正式ルールでのゲーム	・11点を1ゲームとしゲームを楽しむことができる。			
・シングルス	・守備と攻撃の時にペアの位置が変化すること理解し、楽しくゲームを実践することができる。			
・ダブルス				
前期末考査				

保健体育科「保健」シラバス

目標 【学習指導要領】	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	・本時の狙いを明確にし、板書し、目に見える様にする。 ・教科書の展開を中心にして、補足的に説明を加えてやることで、自学出来るよう配慮する。 ・授業の内容のプリントを用意し、教科書を利用して、まとめさせる。

前期 月	後期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容			
4	10	現代社会と健康	1 私たちの健康のすがた	・わが国における健康水準の向上について理解する。 ・わが国における健康問題の変化について理解する。			
			2 健康のとらえ方	・健康についての多様な考え方を理解する。 ・健康の成り立ちとその要因について理解する。			
			3 健康と意志決定・行動選択	・意志決定・行動選択とそれに影響を与える要因について理解する。 ・健康的な意志決定・行動選択を実現する方法について理解する。			
			4 健康に関する環境づくり	・健康づくりを支える環境について理解する。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりについて理解する。			
			5 生活習慣病とその予防	・生活習慣病とはどのようなものか理解する。 ・生活習慣病の予防方法について理解する。			
			6 食事と健康	・健康的な食生活の重要性と意義について理解する。 ・健康的な食生活習慣の形成の必要性について理解する。			
			7 運動と健康	・健康から見た運動の意義について理解する。 ・健康づくりのための運動習慣の形成の必要性について理解する。			
			8 休養・睡眠と健康	・健康から見た運動の意義について理解する。 ・健康から見た休養・睡眠の意義について理解する。			
			9 喫煙と健康	・喫煙の健康影響について理解する。 ・喫煙開始の要因と依存性について理解する。 ・喫煙への対応方法について理解する。			
			10 飲酒と健康	・飲酒の健康影響について理解する。 ・飲酒開始の要因と社会問題について理解する。 ・飲酒への対策について理解する。			
			11 薬物乱用と健康	・薬物乱用の健康影響について理解する。 ・薬物乱用開始の要因と社会問題について理解する。			
			12 現代の感染症	・感染症とはどのようなものか理解する。 ・新たに注目されている感染症について理解する。 ・再び問題となっている感染症について理解する。			
			13 感染症の予防	・感染症予防の原則について理解する。 ・現代の感染症に対策について理解する。			
			14 性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズについて理解する。 ・性感染症・エイズの予防方法等について理解する。			
			15 欲求と適応機制	・欲求と大脳の働きについて理解する。 ・さまざまな欲求についてその現れ方を理解する。			
			16 心身の相関とストレス	・心身相関のしくみとストレスについて理解する。 ・ストレスの影響と心の健康との関係について理解する。			
			17 ストレスへの対処	・原因への対処の方法について理解する。 ・とらえ方をかえることによる対処方法について理解する。 ・気分転換やリラクゼーションなどによる対処の仕方について理解する。 ・信頼できる人や専門家への相談について理解する。			
			18 心の健康と自己実現	・自己実現と心の健康との関係について理解する。 ・自己実現の道すじと達成方法について理解する。			
			19 交通事故の現状と要因	・交通事故の現状について理解する。 ・交通事故の要因について理解する。			
			20 交通社会における運転者の脂質と責任	・安全な運転のための資質について理解する。 ・交通事故の責任と補償について理解する。			
			6	12		21 安全な交通社会づくり	・法的な整備と施設・設備の充実について理解する。 ・車の安全性の向上について理解する。
						22 応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義を理解する。 ・応急手当の手順について理解する。
						23 心肺蘇生法	・心肺蘇生法の意義と原則について理解する。 ・心肺蘇生法の手順について理解する。
						24 日常的な応急手当	・けがの応急手当について理解する。 ・熱中症の応急手当について理解する。
中間考査							
7・9	1	生涯を通じる健康	1 思春期と健康	・思春期の体と健康について理解する。 ・思春期の心と健康について理解する。			
			2 性意識と性行動の選択	・性意識の変化と異性の尊重の大切さについて理解する。 ・性に関する情報と性行動の関係について理解する。			
			3 結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活との関係について理解する。 ・結婚生活と家族の健康について理解する。			
			4 妊娠・出産と健康	・受精・妊娠・出産のメカニズムについて理解する。 ・妊娠・出産期の健康のために必要なことについて理解する。			
			5 家族計画と人工妊娠中絶	・家族計画の意義と避妊方法について理解する。 ・人工妊娠中絶について理解する。			
			6 加齢と健康	・加齢に伴う心身の変化について理解する。 ・中高年期を健やかに過ごすために必要なことについて理解する。			
			7 高齢者のための社会的な取り組み	・高齢者の健康課題とその支援について理解する。 ・すべての人が健康で安全に暮らすための取り組みについて理解する。			
			8 保健制度とその活用	・保健行政の役割と健康づくりについて理解する。 ・保健サービスの活用方法について理解する。			
			9 医療制度とその活用	・医療制度と医療保険の仕組みについて理解する。 ・医療機関と医療サービスの活用方法について理解する。			
			10 医薬品と健康	・医薬品の種類と使い方について理解する。 ・医薬品の安全性のための対策について理解する。			
			11 さまざまな保健活動や対策	・健康づくりのための活動について理解する。 ・民間機関の保健活動について理解する。 ・国際機関の保健活動について理解する。			
		社会生活と健康	1 大気汚染と健康	・大気汚染の原因と健康影響について理解する。 ・大気にかかわる地球規模の問題について理解する。			
			2 水質汚濁・土壌汚染と健康	・水質汚濁とその健康影響について理解する。 ・土壌汚染とその健康影響について理解する。 ・大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわり方について理解する。			
			3 健康被害の防止と環境対策	・環境汚染の防止とその対策について理解する。 ・産業廃棄物の処理と健康との関係について理解する。			
			4 環境衛生活動のしくみと働き	・ごみの処理の仕方について理解する。 ・上下水道の整備と尿の処理方法について理解する。			
			5 食品衛生活動のしくみと働き	・食品の安全性について理解する。 ・行政や製造・加工者による衛生管理について理解する。			
			6 食品の環境の保健と私たち	・食品の安全と私たちの役割について理解する。 ・環境の保健と私たちの役割について理解する。			
			7 働くことと健康	・働くことと健康のかかわりについて理解する。 ・働き方と健康問題の変化について理解する。			
			8 労働災害と健康	・労働災害とその防止方法について理解する。 ・安全管理と健康管理の仕組みについて理解する。			
			9 健康的な職業生活	・職場における取り組みについて理解する。 ・日常生活における取り組みについて理解する。			
2 期末考査							

芸術科「音楽Ⅰ」シラバス

目標 【学習指導要領】	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を持ち、意欲的に音楽活動ができるように身近な器楽教材を取り入れながら学習内容を構成する。 ・感性を働かせ、音楽の良さや美しさを感じ取れる能力を育てる。 ・観察法等により、生徒一人一人の実態を把握し、多面的な能力の評価を行う。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	生活と音楽	歌唱「校歌」 キーボードを弾こう 「喜びの歌」	校歌や現代日本の音楽に親しみ、積極的に感受する態度を身に付け、演奏する喜びを感じ取る。演奏するための基本的な事柄を理解する。
		音楽理論①	プリント学習で理解を深める。
5	楽器の世界	「手紙」	音符や休符について理解し、奏法に注意しながら演奏する。
		音楽理論②	プリント学習で理解を深める。
前期中間考査			
6	日本音楽の楽しみ	箏を弾こう 「さくら」	箏について理解し、楽器の音色を楽しみながら演奏する。
		音楽理論③	プリント学習で理解を深める。
7・9	楽器の世界	ギターを弾こう 「きらきら星」	ギターの奏法を学び、演奏する。
		音楽理論④	プリント学習で理解を深める。
前期のまとめ		既習曲の器楽	各自が選んだ曲を楽しんで演奏する。
		音楽理論テスト	よく理解できなかった箇所の復習。
前期期末考査			
10	アンサンブルの楽しみ	トーンチャイムを演奏しよう 「ふるさと」 「夕焼け小焼け」	日本楽曲の特徴を学び、楽器を美しく響かせる表現を身に付ける。 アンサンブルを楽しむ。
		音楽理論⑤	プリント学習で理解を深める。
11	ミュージカルの楽しみ	鑑賞 ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」 「エーデルワイス」 「ドレミの歌」等	ミュージカルの楽しさを味わい、劇的構成、色彩、場面毎の音楽的効果を感じ取る。
		音楽理論⑥	プリント学習で理解を深める。
後期中間考査			
12	音楽史と鑑賞Ⅱ	バロック～古典派 ベートーベン「交響曲第九番」	それぞれの音楽の特徴や時代的背景を理解するとともに、様々な音楽の美しさがあることに気付く。
		ロマン派～近・現代 ラヴェル「ボレロ」等	それぞれの音楽の特徴や時代的背景を理解するとともに、様々な音楽の美しさがあることに気付く。
1	音楽史と鑑賞Ⅲ	既習曲の器楽	各自が選んだ曲を楽しんで演奏する。
		音楽理論テスト	よく理解できなかった箇所の復習。
後期期末考査			

芸術科「美術 I」シラバス

目 標 【学習指導要領】	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導の上の留意点】	・造形的な創造活動を通して、美的な表現能力や鑑賞能力を育て、創造の喜びを感じさせる。 ・素描表現における選択の幅を広げるとともに、自己実現を目指し表現を追求していく主体的な態度を育てる。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4 5	絵画・鑑賞	名画の模写	・模写作品の選択(教科書、画集、他)、各自模写したい作品の選択。 ・制作(水彩、ポスターカラー、アクリル、キャンバスペーパー)。
6	絵画	名画の説明、鑑賞	・模写作品について鑑賞。
		日本画の制作	・水干絵の具、膠の使い方。 ・もみ紙の技法の学習。 ・モチーフの選定とデッサン。 ・骨描きから彩色。 ・鑑賞。
7・9	デザイン(基礎デザイン)	基礎学習と表現	・構成要素の学習。 ・色彩についての学習。
		ポスターの製作	・技法についての学習。 ・「環境」をテーマに表現。
		グラデーションの作品制作	(ポスターカラー、B3画用紙)
10 11	絵画	人物イラスト	・輪郭とパーツの捉え方。 ・明暗の把握とグラデーションによる表現。 ・ポスターカラーによる彩色。 ・鑑賞。
12	版画(基礎的エッチング)	銅版版画の基礎技法の学習と表現	・基礎技法の説明。 ・版の研磨。 ・グラウンド流し引き、下絵の制作。 ・転写、ニードルで描く。 ・腐食、印刷。
1 2	デザイン	CDジャケットのデザイン	・曲のイメージと抽象的デザイン。 ・レタリングの学習。 ・彩色と仕上げ。 ・プレゼンテーション。

芸術科「書道Ⅰ」シラバス

目 標 【学習指導要領】	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導の上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には意欲的、主体的に取り組む。 ・様々な古典の臨書から基本的な運筆、用筆法や用具用材の選び方、扱いなどを学ぶ。 ・初歩的な創作や作品鑑賞により感性を豊かにする。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	書道入門	ガイダンス	・授業に関する注意事項や書写と書道の違い、用具用材の扱い等を理解する。
		硬筆練習 双鉤填墨	・一年間を通して実用的に美しい文字の練習をする。 ・教科書の中で、一番美しいと思う書を写し取る。
		篆刻	・篆書で姓名印を作る。最古の字体を体感する。
5	漢字仮名交じりの書Ⅰ	書写の復習	・起筆の角度によって、雰囲気が変わることを体得する。
6 7・9	漢字の書Ⅰ ・隷書の学習 ・楷書の学習	木簡の臨書	・最古に近い肉筆の筆勢と特徴を感じる。＜見せる線＞
		曹全碑の臨書	・新聞の題字にも使われる隷書の特徴を感じる。＜波磔＞
		馬季直表の臨書	・温かさ、優しさを表現する。
		牛概造像記の臨書	・厳しさ、力強さを表現する。＜露鋒・方筆＞
		鄭義下碑 雁塔聖教序	・粘り強さ、大らかさを表現する。＜蔵鋒・円筆＞ ・細さと強さを表現する。＜太細＞
10	漢字の書Ⅱ	漢字の創作	・イメージを線や字形に反映させるために、いくつかの実験を行う。＜グループ活動と個人活動を織り交ぜる＞ ・鑑賞会を適宜行い、見る力をつける。 ・創作プリントを作成し、創作の作戦を立てる。
		表装	・完成した作品を自らの手で表装する。＜学園祭に展示＞
11	仮名の書Ⅰ	いろは歌を練習 ＜古典抜粋の臨書＞	・仮名独特の線の練習をする。 ・いろは歌を使って、平仮名の練習をする。
		蓬萊説の臨書	・平安時代の和歌を臨書し、想いを馳せる。
12	行書の学習	蘭亭序	・行書の用筆と字形、特徴について。 ・流れるような運筆と穏やかで変化の多い線の表現。
		風信帖	・重厚で粘りのある線の表現。 ・「風構え」の美しさを追求する。
1 2	漢字仮名交じり書Ⅱ	好きな言葉の創作	・イメージを構成に反映させることを目指し、いくつかの実験を交えながら、「世界にひとつだけの漢字仮名交じり書」を完成させ、一年の集大成とする。

外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」シラバス

目標 【学習指導要領】	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	時間配分を工夫して、基本的な文法事項や平易な文章を理解を円滑にする。適宜コミュニケーション活動を取り入れ、生徒の関心や意欲を持続させながら、既習事項を用いて自己表現する機会を与える。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	Let's Start	基礎項目の復習	アルファベット、辞書の使い方、教室英語、アクセント等を復習する
	Lesson 1	動詞 助動詞	be動詞や一般動詞の用法を理解し、表現できる can / must / willの用法を理解し、表現できる
5	Lesson 2	疑問文 過去形	疑問文の作り方を理解し、使うことができる 過去形の作り方や不規則動詞について理解し、使用できる
	Let's Communicate1	電話をかけよう	基本的な電話応答ができるようになる
	英語のしくみ①	SV・SVC・SVO	SV・SVC・SVO文型を理解する
6	前期中間考査		
	Lesson 3	現在進行形 接続詞	現在進行形の用法を理解し、表現できる。 接続詞の意味と使い方を理解し、表現できる
	Lesson 4	不定詞 動名詞	(to+動詞の原形)の用法(名詞的・副詞的・形容詞的)を理解する (動詞+ing)を「～すること」という意味で使うことができる
	英語のしくみ②	句と節	句(単語のまとまり(S+Vを含まないもの))と節(単語のまとまり(S+Vを含むもの))の違いを理解する
	Lesson 5	比較 SVOO	比較級・最上級の用法を理解し、表現できる。 「～に…を作る」などの言い方(SVOO)を理解し、使うことができる。
7・9	前期期末考査		
	Lesson 6	SVOC	「～を…と呼ぶ」などの言い方(SVOC)を理解し、使うことができる。
	Let's Communicate2	買い物をしよう	基本的な買い物での応答ができるようになる
	英語のしくみ③	SVOO・SVOC	SVOO・SVOC文型を理解する
10	Reading 1	長文読解	物語を読んで、登場人物の意図や気持ちを理解する
	Lesson 7	受動態 分詞の後置修飾	(主語+be動詞+過去分詞)の用法を理解し、表現できる 分詞の後置修飾(現在分詞/過去分詞)について理解し、使用できる。
	後期中間考査		
12	Let's Communicate3	道案内をしよう	基本的な道案内での応答ができるようになる
	Lesson 8	現在完了形 関係代名詞	現在完了形(継続/経験/完了・結果)を理解し、表現できる。 関係代名詞(人を説明するとき/ものを説明するとき)を理解し、表現できる。
1	Lesson 9	関係副詞 助動詞+be動詞+過去分詞	関係副詞(場所を説明するwhere/時を説明するwhen)を理解し、表現できる。 助動詞(can, must, will)+be動詞+過去分詞の用法を理解し、表現できる。
	Reading 2	長文読解	伝記を読んで、情景を思い浮かべたり、その人物の気持ちを想像したりする
	英語のしくみ④	名詞の説明	名詞を後ろから詳しく説明する句や節を理解する
後期期末考査			

家庭科「家庭基礎」シラバス

目標 【学習指導要領】	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	家族や生活の営みを人との一生とかわりの中でとらえ、家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立と健康のための衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることを目標とする。

前期 月	後期 月	単元／章	学習項目	目標／学習内容		
4	10	第1部 人生を見直し、共に生きる	1 これからの自分の人生	・生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解する。 ・長い人生の中の「今」という文脈で、青年期にある自分を見つめなおすことを通じて、これからの人生をどう生きていくかを改めて考える。		
			1章 青年期の自立と家庭・家族	2 青年期の自立	・生涯を見直した中で、青年期の具体的な生き方や自分自身を見つめ直すことを通じ、これからの生き方や方向性について考える。 ・家族の機能は時代とともに変化していくことをおさえ、これから求められる家族の機能について考える。	
			3 人生の課題と意思決定	・生涯を見通して、生活課題に対応した意思決定をし、責任をもって行動することが重要であることを理解する。 ・人生における大きな意思決定の一つである職業選択を、意思決定のプロセスにあてはめて検討する。		
		2章 次世代を育む	1 子どもとかわる	・子どもの健全な発達を支える親や周りのおとなの役割について考える。 ・家庭生活が果たす重要性について理解する。 ・遊びや児童文化の子どもへの影響について考える。		
			2 子どもの育つ環境	・子育てに関する社会的支援や社会の一員として身近な子どもとのかわりについて考える。 ・子どもの現状を知り、子どもの権利の保障や福祉について考える。		
			3 高齢期を見直す	1 高齢期の生活と課題	・身のまわりの人びとに視野を広げ、高齢期の身体的および心理的特徴について理解し、現状の課題について考える。 ・高齢者の個人としての側面について理解を深め、生活上の課題について理解する。	
	5	11	3章 高齢期を見直す	2 高齢者とかわる	・身近な高齢者から生きがい、社会参加などを、聞き取ったりするなどの活動を通して具体的に考える。 ・人間の尊厳を保つ、守られるとはどういうことかを考える。	
				3 高齢社会を生きる	・超高齢社会を迎えている現状と課題について理解し、対策を考える。 ・地域や社会全体で高齢者を支えるしくみについて考える。	
				4章 共生社会と福祉	1 家族・家庭と社会的支援	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 ・私たちの生涯にわたっての生活保障のしくみについて理解する。
		第2部 生活を営み、自立する	1章 食事と健康	2 共生とコミュニティ	・ノーマライゼーションの理念を土台とした社会をつくることが重要であることを理解する。 ・共に生きる社会をつくっていくにはどうすればよいかについて考える。	
				1 栄養と食事	・中学校での学習を踏まえ、青年期と家族の各ライフステージの栄養的特徴について理解する。 ・食生活に関心をもち、食事の重要性について考える。	
				2 食品と調理	・食品の栄養的特質と調理上の性質について理解し、目的を明確にした調理実習を通して調理技術を習得する。 ・食品の選択と衛生について関心をもち必要な知識を身につける。	
6	12	中間考査				
		2章 被服の管理と着装	1 被服の機能と着装	・社会的慣習への適応などの社会的機能を理解し、被服材料の性能や被服の構成とのかかわりが、深いことを理解する。 ・健康で安全かつ快適な衣生活を送ることについて考え、自分の衣生活をふり返る。 ・高校生の着装に関心をもち、自分の個性をみつめ、自分らしい着装について考える。		
			2 被服の管理と計画	・被服の入手、洗濯、保管など、衣生活を自ら管理する知識と技術を習得する。 ・組成表示や取り扱い絵表示を理解し、着心地や管理を考えた被服の選択について考える。		
		3章 住居と住環境	1 ライフステージと住まい	・生涯発達の視点で、家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択ができる。 ・住まい手やその家族の生活と各ライフステージに応じて考える。		
			2 快適で安全な住まい	・安全で健康かつ快適な住居や耐久性の高い住居を選択するために、必要な住居の機能について理解する。 ・「住生活にまつわる」危険を知り、安全対策を考える。		
			3 住まいの環境	・地域コミュニティと共生できる住居の在り方などについて理解し、考える。 ・住環境にかかわる社会的しくみについて理解する。		
		7・9	1	4章 生涯の経済計画	1 生活に必要な費用と管理	・生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済のかかわりなどについて理解する。 ・誰にでも、リスクが発生する可能性があることを認識し、それに備える方法について理解する。
					2 将来を見通した経済計画	・生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考える。
			5章 消費者としての自立と社会参加	1 社会の変化と消費者問題	・消費者問題発生時の社会的背景について考え、消費者保護に関する施策について理解する。	
				2 消費者の権利と責任	・適切な意思決定や消費行動によって意見を表明し、行動することが消費者の責任であることを理解する。	
			6章 ライフスタイルと環境	1 消費生活と環境とのかかわり	・環境問題や資源・エネルギー問題が生じていることを理解する。 ・自らの消費行動によって環境負荷を低減させ、環境保全に貢献できるライフスタイルを見直す。	
				2 持続可能な社会に向けて	・地球温暖化など環境問題に配慮するライフスタイルを主体的に考える。	
2	7章 自己の生活設計	自己の生活設計	・将来の生活に向かって目標を立て、学習した内容とかわらせて自分の目指すライフスタイルを実現するために生活を設計する。			
期末考査						

商業科「ビジネス基礎」シラバス

目標 【学習指導要領】	ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	・ビジネスに関する基礎的な知識・技術を習得させ、経済社会で生きていく力を身に付けさせる。 ・経済社会の一員としての心構えをもたせ、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力・態度を養う。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	第1章商業の学習ガイダンス	21世紀にはばたく	商業を学ぶ目的について理解し、ビジネスの諸活動に広く関心を持つ。
		しっかりと楽しく学んでいこう	商業の学習分野と職業について理解し、卒業後の進路について意識を高める。
5	第2章経済と流通の基礎	経済のしくみとビジネス	商品の定義や、経済の仕組み、経済主体などについて理解させ、企業活動が経済の発展に対して重要な役割を担っていることを理解させる。
		社会の変化とビジネスの発展	サービス経済化や情報化、グローバル化について理解する。
		経済活動と流通	流通の意義と役割について理解する。
		第3章ビジネスの担い手	ものの生産者
	サービスの生産者	サービスの生産者の役割について理解する。	
	小売業	小売業者の広い役割について理解する。	
	卸売業	卸売業者の役割について理解する。	
	物流業	物流業者の役割について理解する。	
金融業	金融業者や保険業者の役割について理解する。		
情報通信業	情報通信業者の役割について理解する。		
6	前期中間考査		
7・9	第4章企業活動の基礎	ビジネスと企業	企業の役割、種類、株式会社の仕組みについて理解する。
		資金調達	運転資金、設備資金の意味を理解する。
		企業活動と税	企業活動に関わる税について理解する。
		雇用	雇用の形態と雇用に伴う企業責任について理解する。
		企業倫理	企業倫理と社会的責任について理解する。
	第5章ビジネスと売買取引	売買取引の手順	売買契約における品質・数量・価格の決め方・受け渡し条件・代金決済の決め方について理解する。
		代金決済	通貨・小切手・手形・クレジットカード・電子マネーなど代金決済の手段と仕組みについて理解する。
	第6章売買に関する計算	売買に関する計算の基礎	割合、基準量と比較量、割増および割引の計算を理解する。 仕入原価、販売価格、売買損益の計算を理解する。
		売買に関する計算の応用	度量衡、貨幣換算の計算を理解する。 単利と複利、利息と元利合計、利息の日数計算を理解する。
	第7章ビジネスとコミュニケーション	コミュニケーション	ビジネスの場面に応じたコミュニケーションの取り方やその意義を理解する。
ビジネスマナー		ビジネスマナーの意義と必要性と基本的なビジネスマナーについて理解する。	
情報の入手と活用		ビジネスに関する情報を入手する方法や、情報をどのように活用するかを理解する。	
前期末考査			

商業科「課題研究」シラバス

目標 【学習指導要領】	商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導上の留意点】	インターネット等を利用して、今、世界には、どのような問題が発生しているのかを知るとともに、その仕組みを考察し、解決策を図るとともに、ビジネスチャンスに生かす方法を考察し、校内向けに、効果的なプレゼンテーションを実施する。また、各人の課題の解決のために、自ら検定学習等に取り組み合格を目指す。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	オリエンテーション	・国際間の経済的状況について	国際経済環境について、インターネット等を利用して調査する。
		・国際間の仕組みが国内産業に及ぼす影響について	日本経済の特徴について、インターネット等を通じて調査する。
5	金融環境について	・金融全般について	日本の金融のシステムを調査・研究する。
		・間接金融について	間接金融のシステムと役割、関わっている金融機関について調査研究する。
		・直接金融について	直接金融の種類と規模について調査・研究する。
6	投資シミュレーション	投資シミュレーション	上場企業の株式を模擬売買することによって、直接金融のまとめとする。 1 株式は、その日の終値で購入する。 2 売り注文は、終値で注文を掛け、よく授業日の初値で売れたこととする。 3 株式の保持期限は一月以内とする。 一覧表をエクセルでまとめる。教師からは、エクセルの形式だけ示すこととする。
		投資シミュレーションのプレゼンテーションを作成する。	基本形式のパワーポイントを生徒に配布して、それを基に完成させる。 次の観点で作成させる。 1 売買に成功した株式の例 2 売買に失敗した株式の例 3 それぞれの銘柄を購入した理由 4 成功したわけ、失敗したと思われる理由 5 感想
7・9	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション発表会	プレゼンテーションの自己評価をさせる。
前期期末考査			
10	マーケティング活動	模擬販売促進	いろいろな広告について 各種広告の技法について研究する。(デザインに過度に入り込まないよう注意する。)
		販売実習の企画・販売促進	販売実習の企画と販売促進について学習する。 販売実習の企画をする。 販売実習の広告をする。
11		模擬会社の設立	会社の設立について学習する。 擬似的に会社の設立をする。
		模擬会社の清算	会社の清算について学習する。 模擬会社を清算する。
12	知的財産権の研究	知的財産権の研究	産業財産権の研究 インターネットの専用サイトを利用して、様々な特許権の研究 インターネットの専用サイトを利用して、様々な商標権の研究
1	各種研究課題の研究	研究課題の研究	産業分野に関する課題を研究する。 各自研究課題を設定し、インターネット等を利用して研究する。 研究資料をワード・エクセルなどの形で保存する。
			研究資料を項目別に整理する。 発表用の原稿を作成する。 パワーポイントの形でまとめる。
2		自己評価	自己評価表の作成
後期期末考査		在校生への研究発表会	

商業科「情報処理」シラバス

目標 【学習指導要領】	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価基準を念頭に置いた指導の上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの諸活動における情報の意義や役割を理解し、情報をビジネスに積極的に活用する態度を身につける。 ・コンピュータの基本的な仕組みやソフトウェアなどに関する基礎的な知識を習得し、目的に応じた機器の利用ができる。 ・表計算ソフトウェアやワープロソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、情報通信ネットワークなどを活用したビジネス情報の処理ができる。

月	単元／章	学習項目	目標／学習内容
4	ガイダンス 1章 情報の活用と情報モラル	受講上の注意	受講上の注意を理解する。
		1節 ビジネスと情報	ビジネスの諸活動における情報の役割とコンピュータを利用した情報活用の重要性を学ぶ。
		2節 情報モラル	情報化社会に参画するために個人が身につけるべき情報モラルについて学ぶ。
5	2章 情報通信ネットワークとセキュリティ管理	3節 ハードウェアとソフトウェア	コンピュータや周辺機器の仕組みと、ソフトウェアの役割を理解し、目的に応じた機器の選択や利用ができる知識を身につける。
		1節 情報通信ネットワークの概要	情報通信ネットワークの概要と、ビジネスにおけるインターネットの様々な利用方法やその効果について学ぶ。
		2節 ビジネス情報の検索と収集	情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について学ぶ。
		3節 ビジネス情報の受信と送信	電子メールの利用方法について学ぶ。
		4節 セキュリティ管理の基礎	情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について学ぶ。
6	前期中間考査 3章 ビジネス情報の処理と分析	1節 基本的な表の作成	表計算ソフトウェアの特徴を理解し、基本操作ができるようにする。
		2節 関数を利用した表の作成	関数を利用して有用なビジネス情報を導き出すための技法を学ぶ。 合計、平均、最大値、最小値、判定、件数カウント、端数処理、順位付けや日付などの関数を利用できるようにする。 表の検索や文字列の加工、データベース関数などの応用的な関数が利用できるようにする。
		3節 グラフの作成	グラフを用いて表のデータをわかりやすく表現できるようにするため、グラフの基礎知識や作成方法を学ぶ。
7・9	前期期末考査		
10	ガイダンス 3章 ビジネス情報の処理と分析	受講上の注意	受講上の注意を理解する。
		4節 情報の整列・検索・抽出	表のデータを目的に応じた利用しやすい形で取り出し活用するため、整列や検索の技法などを学ぶ。
		5節 ビジネスと統計	目的に応じた適切な計算やビジネスにおける需要予測などの傾向をとらえる力を習得させる。
11	4章 ビジネス文書の作成	1節 ビジネス文書と表現	文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解させる。
		2節 図形と画像の活用	図形や画像情報の活用により情報の簡潔化、明瞭化、印象の強化などの効果が期待できることについて理解させる。
		3節 基本文書の作成	ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解させるとともに、基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術を習得させる。
12	後期中間考査 4章 ビジネス文書の作成	4節 応用文書の作成	ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術を習得させる。
		5章 プレゼンテーション	1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスとプレゼンテーション プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、発表用の資料の整理や作成などの準備から発表までのプレゼンテーション技法を習得させる。
1			
2			
		後期末考査	